週刊 YEARBOOK

1980
昭和55年

日録20世紀

4|8
平成9年4月8日発行
(毎週1回発行)第1巻第8号
¥550
講談社

山口百恵 涙の引退!

年間1100万台!日本車、生産台数世界一に
"金属バット殺人"と家庭内暴力
大統領2人も関与、韓国光州事件の真相

涙で歌った「さよならの向う側」
10月5日、日本武道館で山口百恵引退！

大スターだけが持つ“魔力”を封印して

デビューは八年前。昭和四七年一二月八日に行われたタレント・スカウト番組「スター誕生」（NTV系）の決勝大会で二位となり、ホリプロに所属。同じ中学三年生であり、ともに「スター誕生」出身だったところから、桜田淳子、森昌子と“花の中三トリオ”と言われた。

当時の人気歌手といえば、雲の上から微笑みかける天使そのものの天地真理だったし、彼女と並んで三人娘と騒がれた南沙織、小柳ルミ子だった。だが、一四歳の少女の“性に目覚める頃”を、きわどい詞に封じこめた「としごろ」「青い果実」「禁じられた遊び」のデビュー三部作で、山口百恵は従来のアイドル像を打ち破った。

大人たちから“青い性典”といった批判をあびながらも、若者たちの共感を勝ち得た彼女は、以後、「横須賀ストーリー」「イミテイション・ゴールド」「プレイバックPART2」「絶体絶命」「いい日旅立ち」などなど、やつぎばやにヒットを飛ばしていった。育ての親とも言うべき酒井政利氏（当時CBS・ソニープロデューサー）はこう語る。

「少女の成長の過程をそのまま歌にしていく私小説風の路線でデビューさせたんです。現実に対して真剣で、それを素直に表現できる少女が、私にとっての山口百恵でした。我々スタッフがこういった作品をと提供すると、彼女はそれ以上の表現で挑んできた。お互いの触発合戦はすさまじくもあり、実に楽しいものでもありましたね」

酒井氏は、山口百恵と出会った時、あどけない少女の中に大スターだけが持つ特有の“魔力”を感じたと言う。だが彼女は、結婚して芸能界から引退することで、その“魔力”をみずから封印したのだとも。山口百恵自身、「週刊明星」（昭和五五年三月三〇日号）に寄せた特別手記の中で、「私の仕事のために、彼がどこかでがまんしなければいけないという状態が嫌だったんです」と引退の理由を記している。

LPレコード四八五万枚、シングルレコード一六八〇万枚を売り、一一本の映画に出演した“アイドル・山口百恵”と訣別した三浦百恵さんは、現在も普通の主婦のまま、マスコミの取材にもいっさい応じていない。

“大人の女”百恵から“ぶりっ子”聖子へ

▶ファイナル・コンサートで熱唱。

アイドルが芸能界のメジャー・シーンに浮上し始めたのは昭和40年代中頃。それ以前は、小川知子、伊東ゆかり、奥村チヨなどの女性歌手が人気を集めていたが、彼女たちには清純さや少女っぽさは要求されていなかった。だが、「抱かれる女」から「抱く女」へと女性の自立が叫ばれた40年代前半、ウーマン・リブの流れとは裏腹に、男性たちは処女性への憧れをふくらませる。そこへ現れたのが、天地真理、小柳ルミ子、南沙織の3人娘だった。この3人は年齢以下に幼く見えるよう演出され、清純さとかわいらしさのシンボルといったイメージを持つアイドルとなった。

こうした肉体を感じさせない、透明で現実離れした世界の住人だったアイドル像を打破したのは、山口百恵である。百恵は少女の危うい感性を告白調で歌う場所から出発し、みずからの意志に忠実な大人の女へと変わっていくプロセスを、心の揺れや葛藤とともに表現することに成功したのである。やがて昭和50年代のなかば、軽薄短小の世相を背景に“ぶりっ子”松田聖子が登場。“望まれるアイドル像”をその場その場で演じ分けて見せることによって、時代の共感を呼んだ。その後、小泉今日子、中森明菜らが活躍したが、歌番組自体がテレビから消えていき、高橋由美子が“最後のアイドル”と呼ばれたのは、記憶に新しい。

▼川端康成原作「伊豆の踊子」は、山口百恵、三浦友和主演作が6度目の映画化。昭和49年、東宝撮影所でのスナップ。

▲左から桜田淳子、森昌子、山口百恵のトリオは、東宝映画「初恋時代」で共演した（東京プリンスホテルにて撮影）。報知新聞社

自動車生産、年間一一〇〇万台突破！
世界一になった日本の"喜び"と"重圧"

▶昭和55年頃のトヨタ自動車専用埠頭（名古屋港）。昭和39年完成。2万1000台を収容する。
トヨタ自動車

昭和五五年（一九八〇）、日本は世界の四分の一にあたる一一〇四万二八八四台の自動車を生産、アメリカを抜いてついに世界一の座についた。何が日本を首位の座に導いたのか、そしてその意味は何だったのだろうか。

▶昭和五五年頃の日産自動車追浜工場。熔接や塗装工程を中心に、ロボットが大量導入された。
日産自動車

低価格、燃費、品質でついに生産量世界一に

「日本はいきなり世界一になったわけではありません。じわじわと差が詰まっていつかトップになるだろうとは言われてましたがね」（評論家・梶原一明氏）

昭和五五年は、このような大方の予想がついに現実となった年であった。

「第二次世界大戦中に深い眠りにおちいった男が、この年に目をさまし、自動車業界の現状を見たら、世界大戦で勝利したのは日本だと思ったに違いない」といった話があるくらい、それは画期的な出来事だった。わずか二〇年前、昭和三五年の日本の生産台数はアメリカの一六分の一という規模だったのである。

日本は一九五〇年代後半から順調に自動車生産をふやし続けた。同時に輸出台数も急激な伸びをみせ、昭和四五年には一〇〇万台を突破、日本車は世界市場に浸透していった。とりわけアメリカにおける日本車の販売台数は、一九七九年には前年比三〇・四％増で、シェアは一六・八％にまで高まっていた。

日本車はなぜ売れたのか。

当時アメリカの車事情を取材したルポライターの加納明弘氏は、アメリカのあるディーラーの話として次のように伝えている。

「低い価格、燃費のよさが魅力だが、客自身が使っているうちにそれ以上の値打ちがあることを発見したんだ。それは品質だ。故障しない。メンテナンスコストがかからない。いい買物をしたと思うようになる。ディーラーにとってもユーザーから持ちこまれる苦情が少ないことは助かるよ」（「文藝春秋」昭和五五年一月号「輸出——日本車はなぜ売れる」）

自動車産業大躍進の原動力はどこにあった

日本車がこれだけ人気を集め、世界を制した理由は何だったか。

「なんといっても、設備や研究・開発への投資を積極的に行い、最新鋭の工場と設備を作りあげたからです。自動車工業を日本の基幹産業に育てるため、金融界も全面的にバックアップ、増資や社債の発行を後押しし、生産体制の強化をはかった。それによって加工部材や部品のクオリティが精錬され、歩留まりが高くなってコストも低くなった。日本の鉄鋼産業が強力で安定していたため、優れた鋼板を供給できたことも見逃せません。労使協調という労働組合のリーズナブルな対応も、会社が内部留保を高め、設備投資をしやすい環境を作ったという点で、世界一に大きく寄与しています」

と梶原氏は語っている。

それだけにとどまらなかった。

「アメリカに追いつき追い越せ」は、日本人のかけ声ともなっていた。かつて戦争中に零戦などの飛行機を作っていた技術者たちの多くが、戦後、鍋やオートバイのエンジン作りでその場をしのいできた。日本が経済復興をとげ、自動車の本格的生産が視野に入った時、これらの人々は、信頼性の高い、高性能の自動車を作るという新たな課題を与えられることになった。これは、敗戦によってアメリカの国力や技術力をいやというほどみせつけられた後だけに、とりわけやりがいのある挑戦だった。

彼らは、車体の軽量化、エンジンの信頼性や効率の向上、走行抵抗の低減などの技術的課題を次々と克服していった。

一方、生産現場では、ロボット導入に代表される設備の近代化、大手では年間一〇〇万件以上と言われる職場提案制度の実施などによる合理化や工夫が徹底的に行われた。この結果、労働効率は飛躍的に高まり、他国の追随を許さないほどになっていた。EC委員会は「日本のメーカーの一九七八年の従業員一人当たりの生産性は年間四五台、ヨーロッパ平均は一二台、アメリカは一〇台にすぎない」

と報告した。
　こうして日本は品質面での信頼を勝ち取るとともに、コスト削減にも成功、世界一の座への階段を駆けのぼっていったのである。

「日本車ボイコット」の声も出た米国の圧力

　日本車の攻勢に対し、初めのうちは、「石油ショックという神風が吹いただけさ」とのんきに構えていたアメリカも、次第にいらだちを表すようになった。
　アメリカは当時、世界のビッグスリー（GM・フォード・クライスラー）が軒並み赤字を計上、クライスラーの倒産がささやかれる中、レイオフも関連産業を含めると四五万人に達していた。一九八〇年の総生産台数は前年の一一四七万台から八〇一万台に激減した。
　自動車産業と軍需産業が密接な関係にあるアメリカでは、この状況を国防上の問題とする声もあり、日本車の輸入規制を求める声が日増しに高まった。全米自動車労連（UAW）のフレーザー委員長は「日本は現地生産すべき。さもなくば日本車ボイコットに踏み切らざるをえない」と宣言、日米自動車問題は政治的様相を強めていった。
　〝世界一〟という冠の重圧が日本に重くのしかかった。「世界一」はうれしいが、その結果が日米摩擦を激化させることになると……」とは、一業界関係者の当時の弁。喜びと不安が入りまじり、かつクールな受け止め方だった。
　日米自動車摩擦は翌五六年五月、日本側の自主規制という形で決着。しかしその後も日本の自動車生産は好調で、以後一五年間にわたり世界一の座を守り続けた。こうしてみると、当時の業界の冷静な受け止め方は、日本の自動車産業が大人として自立し、世界と戦う自信を獲得したことを意味していたと言えよう。

昭和55年頃の日本車売れ行きベスト10

昭和54〜56年平均（資料：『自動車工業ハンドブック』）

トヨタ自動車
▲第5位、6代目トヨタ・コロナ。新車登録台数約11万6000台。1600〜2000cc、95万〜162万円。

トヨタ自動車
▲第1位、4代目トヨタ・カローラ。新車登録台数約26万2000台。1300〜1600cc、77万〜160万円。

トヨタ自動車
▲第6位、6代目トヨタ・クラウン。新車登録台数約11万6000台。2000〜2800cc、131万〜329万円。

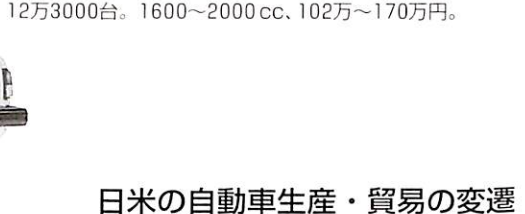
日産自動車
▲第2位、6代目ニッサン・ブルーバード。新車登録台数約17万1000台。1600〜2000cc、95万〜170万円。

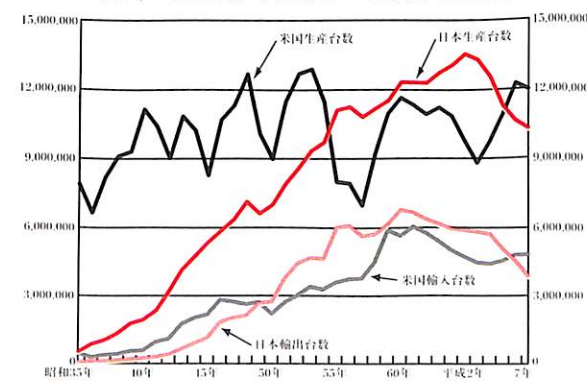
マツダ
▲第7位、5代目マツダ・ファミリア。新車登録台数約11万4000台。1300〜1500cc、74万〜104万円。

日産自動車
▲第3位、4代目ニッサン・サニー。新車登録台数約15万8000台。1200〜1400cc、74万〜113万円。

トヨタ自動車
▲第8位、4代目トヨタ・マークⅡ。新車登録台数約11万1000台。1800〜2200cc、102万〜215万円。

日産自動車
▲第4位、5代目ニッサン・スカイライン。新車登録台数約12万3000台。1600〜2000cc、102万〜170万円。

本田技研工業
▲第9位、5代目ホンダ・シビック。新車登録台数約8万7000台。1300〜1500cc、86万〜137万円。

トヨタ自動車
▲第10位、2代目トヨタ・スターレット。新車登録台数約8万台。1200〜1300cc、64万〜88万円。

（資料：『自動車工業ハンドブック』、『自動車産業ハンドブック』）

女たちの肖像

〝マルチ才女転身〟中山千夏が参議院選で当選！

稲葉真弓

　大平首相の突然の死、衆院・参院の同日ダブル選挙と話題を呼んだこの年の選挙戦の中で、参院選は史上最高の投票率を記録、目を引いたのが「革新自由連合」代表の中山千夏（三二）の当選で、最終得票は一六一万九六二九票、堂々全国区五位だった。
　彼女がこれだけの票を集めえたのはタレントとしての知名度の高さもあったが、革自連独自のアピールが庶民の共感を呼んだことにあった。「金なし、組織なし、連呼なし」で、同志の矢崎泰久、永六輔らと全国をまわり、市民と膝つきあわせた「普段着の会話」による運動に加え、「政治を汚れたプロの手から素人に」のキャッチフレーズも、金権政治にうんざりしていた庶民に好感を持って迎えられたのだった。
　立候補の理由を彼女は、矢崎との対談の中で「わたしなんかが政治家にならなくてすむような世の中がいいに決まっている。でもそんなことを言っていると汚職はする、物価は上がる、戦争まで起きそうになるんだから、ボンヤリしてられないんだよね」と語っているが、政治を市民レベルの運動や住民運動、女性問題につなげていきたいという思いがあったからだという。
　中山千夏は、一一歳で、東京・芸術座の「がめつい奴」にテコちゃんという少女役で出演、「天才子役」と評判を呼び、空前の大ヒットを記録。女優、テレビタレントとして売れっ子になるのだが、昭和四六年ジャズピアニストの佐藤允彦と電撃結婚。この結婚を千夏はマスコミに「二人とも魔がさしたのよ」と語ったが、五二年暮れ、これも突然離婚届を出して話題を呼んだ。離婚後の彼女はウーマン・リブ運動に積極的に取り組んだり、体験を基にした小説「子役の時間」などで直木賞候補になるなど、マルチ才女ぶりが脚光をあびた。五八年の参院選比例区では「無党派市民連合」を結成したが、千夏の第一秘書・矢崎泰久への不信感から青島幸男らが脱退する事態になり、当選者ゼロで完敗。六一年には東京地方区で出馬したが落選。以後の彼女は文筆業に専念、『古事記』の現代語訳に力を注いだり、女性差別問題、死刑廃止運動、反原発運動にかかわっているが、趣味のスキューバ・ダイビングの本を出すなど、枠にはまらない多彩な才能を発揮している。

▲昭和43年、「お昼のワイドショー」の司会で本領発揮。

勝者・敗者

「自分をほめてやりたい」〝打撃の職人〟張本勲、三〇〇〇本安打達成

阿部珠樹

　五月二八日、夜。いつもは閑古鳥が鳴くことで有名な川崎球場に、珍しく一万五〇〇〇人もの観客が詰めかけていた。観客のめあてはただひとつ、この日実現されるかもしれない歴史的な大記録の目撃者になることである。ロッテ・オリオンズ（現・千葉ロッテマリーンズ）の張本勲は、通算三〇〇〇本安打まであと二本と迫っていた。日本にプロ野球が誕生して四五年、三〇〇〇本安打は誰もなしとげたことのない未到の記録である。
　張本は初回ライト前にヒットを放ち、大記録まであと一本と迫る。そして六回裏、その瞬間がやって来た。対戦相手の阪急ブレーブス(現・オリックス・ブルーウェーブ)のマウンドには、快速球を武器にする山口高志が上がっていた。この年四〇歳を迎えた張本にとっては、けっして楽な相手ではない。だが二二シーズンにわたり、さまざまな強者と戦ってきた張本のバットは錆びていなかった。真ん中やや高めに来たシュート気味の球を渾身のスイングで打ち返す。打球はどんどん伸びて、川崎球場ライトスタンド最上段に張りめぐらされている金網にあたり、跳ね返った。野手の間をはかったように抜いてヒットにする「広角打法」が売りものの張本のメモリアル・ヒットは、最も似つかわしくない特大のホームランだった。
　昭和三四年に浪華商業から東映フライヤーズに入団した張本は、早くからその打撃の才能を開花させ、入団三年目には首位打者のタイトルを獲得、その後合計七回、そのタイトルをものにする。三〇〇〇本安打を達成するには、毎年コンスタントに一五〇本の安打を放っても二〇年かかる。「これまで自分を支えてきたのは、貧しい家に生まれ、おいしいものを腹いっぱい食べたい、自分の家を持ちたいというハングリー精神だった」打撃の職人は、長い道のりを振り返った後、「まず一番に自分をほめてやりたい」と、誇らしげにつけ加えた。

▲盗塁319個は史上16位。

時事通信社

▲**ポール・マッカートニー逮捕(1月16日)**14年ぶりの来日だったが、大麻所持現行犯で逮捕された。18日に東京地検に送検(写真)、公演は中止、国外退去になった。

共同通信社

▲**高校サッカーファン過熱(1月8日)**超満員の東京国立競技場の全国高校サッカー決勝戦で、東京の帝京が山梨の韮崎を破って優勝。その直後グラウンドに観衆がなだれこみ、4人が負傷した。

▼**池田満寿夫(45)・佐藤陽子(30)が祝賀披露(1月19日)**東京・銀座のパブに友人・知人約200人が集まり、版画家で芥川賞作家と、バイオリニストという異色のカップルの門出を祝った。

▶**自衛官スパイ事件(1月18日)**警視庁は元陸将補・宮永幸久と現役自衛官2人を秘密漏洩罪で逮捕。中国軍関係の秘密文書をソ連大使館付武官コズロフ(右)に流していた。

読売新聞社

◀**リムパック'80初参加の自衛艦が出航(1月25日)**護衛艦「ひえい」と「あまつかぜ」が、米・豪など5ヵ国が2月下旬から行うハワイ沖の合同演習に初めて参加した。

▼**大分でプロパンガスが爆発(1月28日)**日出町の鉄筋3階建てアパートが、一瞬のうちにほぼ全壊。2人が死亡、住人など12人が負傷した。

読売新聞社

読売新聞社

朝日新聞社

昭和55年1月

- 1(火)●大阪市営地下鉄で酒酔い運転士を乗客が排除。
- 2(水)●尾鷲市の山中に軽飛行機が墜落。四人死亡。
- 3(木)●結婚望まぬ未婚女性が二三％、と総理府調査。
  ●中島正一、マゼラン海峡単独潜水横断に成功。
- 4(金)●米、ソ連のアフガニスタン侵攻に報復を発表。
- 5(土)●「少年ジャンプ」に「Dr.スランプ」連載開始。
- 6(日)●西都市の神社参道で吊り橋が落下。七人死亡。
- 7(月)●輸入大豆市況、米の対ソ穀物輸出削減で暴落。
- 8(火)●西宮市の河川敷で、いたずら電話の犯人扱いされた女子中学生が割腹自殺をはかり重傷。
  ●電電公社の「から超勤」が会計検査で発覚。
- 9(水)●鳴門海峡でタンカーと貨物船衝突し重油流出。
- 10(木)●社会・公明両党、連合政権構想で合意。
- 11(金)●政府、国家公務員の自家用車通勤を原則禁止。
  ●大阪府、府施設での合成洗剤全廃の要綱制定。
  ●本田、米オハイオ州に小型車工場建設と発表。
- 12(土)●スーパー四社、過酸化水素添加の食品を撤去。
- 13(日)●米国防長官来日。日本の防衛力拡大を求める。
- 14(月)●東京簡裁、カメラでの速度測定は合憲の判決。
- 15(火)●那覇市内で反対派排し自衛隊員参加の成人式。
- 16(水)●東大、二段式ロケットの飛行実験に成功。
  ●ポール・マッカートニー、成田空港で大麻所持の現行犯逮捕(25日国外退去)。
- 17(木)●一〇〇〇社が一総会屋に三〇億円拠出と判明。
- 18(金)●警視庁、ソ連に情報提供の宮永幸久元陸将補と自衛官二人を逮捕(自衛官スパイ事件)。
- 19(土)●スパイ事件容疑のソ連大使館付武官が出国。
- 20(日)●米大統領、モスクワ五輪ボイコットを提唱。
- 21(月)●高橋展子、デンマーク大使に。初の女性大使。
  ●行管庁、老人医療費無料制度の見直しを勧告。
- 22(火)●ソ連、物理学者のサハロフ博士を流刑処分。
- 23(水)●氷割れ事故恐れ精進湖のワカサギ釣り中止に。
- 24(木)●自民党、小選挙区比例代表並立制導入を検討。
  ●KDD元社長秘書が密輸事件の聴取後、自殺。
- 25(金)●大平首相、ココム規制強化など対ソ措置発表。
- 26(土)●エネルギー庁、定期検査期間の短縮などで原子力発電所の七〇％稼働方針を決める。
- 27(日)●四年ぶりにブラッドフィールド彗星を観測。
- 28(月)●鎌倉市、二七％の退職金引き下げ案を提示。
- 29(火)●資源調査会、「ゴミ発電」推進を科技庁に建議。
- 30(水)●大阪地裁、建築寸法の偽りに初の詐欺罪適用。
- 31(木)●最高裁、カップ麺容器の実用新案権の承認を、特許庁に求める日清食品の上告を棄却。
  ●熊野市で男性が斧と銃で一族七人殺害し自殺。

ニュース・ファイル

1980

フォト＋日録で再現する366日

自動車の生産台数がとうとう世界一になった。輸出も欧米からの「集中豪雨だ」の声の中、世界一を六年続けた。六月には初めての衆参同日選挙で自民党が圧勝、保守政権は安定するが、山口百恵や王の引退、長嶋の監督辞任と時代の転換を告げる動きも始まった。

◀**静岡の地下街でガス爆発(8月16日)**午前10時前、駅前の地下街でガスが爆発・炎上、周囲の建物も全半壊し、死者15人、負傷者233人の大惨事となった。原因は地下街の水抜き槽にできたメタンガスの小爆発で、ガス管が破損したためだった。

共同通信社

▶経団連会長、土光敏夫から稲山嘉寛へ（2月12日）3期6年をつとめて任期切れとなった土光（右）が、この日、正副会長会談後の記者会見で交代を表明。5月23日の定期総会で、副会長で新日鉄会長の稲山が5代目の会長に就任した。

読売新聞社

◀旅客機炎上、奇跡の脱出（2月27日）台北発マニラ行き中華航空ボーイング707型旅客機が、マニラ空港着陸直後に爆発・炎上。乗員らの的確な判断で、乗客ら135人はすばやく非常口から脱出、日本人9人を含む全員が無事だった。

共同通信社

▼冬季五輪で八木弘和が殊勲のメダル（2月17日）米国のレークプラシッド大会70メートル級ジャンプでみごと銀。ジャンプでの日本のメダル獲得は、札幌五輪以来8年ぶりだった。

読売新聞社

▲サリドマイド障害者、公務員に（2月12日）熊本市の辻典子さんが、同市の初級事務職に合格。全国初の例となった。写真は訓練のため入所中の東京都心身障害者福祉センターで、母親から合格の連絡を受ける辻さん。

時事通信社

▶浩宮様、成年式（2月23日）浩宮徳仁親王がこの日、満20歳を迎え、皇居で宮中伝統の成年式行事、加冠の儀を行った。この後は、成年親王として宮中諸行事や、公的活動に参加される。

朝日新聞社

▼前衛舞踊家・花柳幻舟、家元を刺す（2月21日）東京国立劇場の楽屋前で、花柳流三世家元の顔に果物ナイフで切りつけた。幻舟は家元制度反対を唱えており、後に懲役8ヵ月の実刑判決を受けた。

読売新聞社

昭和55年2月

1（金）●政府、事実上のモスクワ五輪不参加を表明。
●初の「省エネルギーの日」。政府が提唱。
2（土）●久保田防衛庁長官、自衛官スパイ事件で辞任。
3（日）●銚子市の不正給与の一部四〇〇〇万円が時効。
4（月）●東京でサラ金被害者三〇人から、返済を代行すると三七〇〇万円を詐取した男を逮捕。
5（火）●最高裁、三田村鳶魚著作権訴訟で、中央公論社に縁故者へ印税九三〇〇万円の支払い命令。
6（水）●来日中のボリショイ・バレエ団員、米へ亡命。
●KDD秘書室付参与、電車に飛びこみ自殺。
●米国での乗用車販売実績発表。トヨタが三位。
7（木）●日立、西独に半導体組立工場の設立を発表。
8（金）●在日外国人の公団住宅入居と公庫融資を認可。
9（土）●収賄で公判中の前尾道市長、刺殺体で発見。
10（日）●社会党全国大会、社公連合政権構想を承認。
11（月）●国立市の中学生が初乗り運賃で国電の東京近郊区間の「一筆書き乗車」四三六・四キロを達成。
12（火）●通産省、太陽熱発電のソーラー基金創設決定。
●サリドマイド障害者、辻典子さんが熊本市の公務員試験に合格。
13（水）●冬季五輪レークプラシッド大会開幕。
14（木）●農水省、出荷奨励など野菜価格安定策を作成。
15（金）●茨城県沖の領海内で操業中のソ連漁船拿捕。
●延暦寺の尾崎大顗、一二年間読経の行を完了。
16（土）●ダイエー、小売業で日本初の売上高一兆円に。
●コッポラ監督「地獄の黙示録」封切。
17（日）●青梅マラソンで全盲の盲学校教員が完走。
18（月）●被爆者援護法請願署名三八五万、国会に提出。
19（火）●秩父で明治四四年盗難の如来像発見と新聞に。
20（水）●ねずみ講天下一家の会の内村健一に破産宣告。
21（木）●花柳幻舟、家元制度に反対し花柳寿輔を刺す。
22（金）●平和相銀の融資が株買い占めの元手にと判明。
23（土）●宮崎知子、富山県で女子高生を誘拐、殺害。（3月5日、信金女子職員を誘拐、殺害）。
24（日）●警視庁、KDD事件で前社長室長を逮捕。
●伊東市に東日本初の被爆者療養センター落成。
25（月）●花王石鹸、無リン合成洗剤を発売と発表。
26（火）●海上自衛隊、リムパック80に初参加。
●航空管制官試験に初めて女性（六人）が合格。
27（水）●公取委、サラ金の実質年利の表示を義務化。
28（木）●東京都地労委、日航労組員への賃金差別を認め、日航に一〇億円の支払いを命令。
29（金）●長崎県勝本町で捕獲したイルカ八〇〇頭を、米動物愛護活動家が逃がす（3月8日逮捕）。

▲早大商学部で入試問題漏洩（3月6日）8日、問題を盗んで売った同大職員ら4人が逮捕され、13日には関与した教授を解任。不正合格者9人は除籍となった。写真は7日、学内に出た抗議の立て看板。

毎日新聞社

▲踊る竹の子族（3月17日）東京の代々木公園付近の歩行者天国で派手な衣装と化粧で踊る十四、五歳の若者たち。前年10月頃から日曜日になると出現した。

朝日新聞社

▶保険金殺人に死刑判決（3月28日）被告・荒木虎美（写真）は、49年妻子3人を別府湾で水死させたと起訴され、この日、死刑判決。高裁も同じ判決だった。

朝日新聞社

▼中学生が職員室に放火（3月3日）ちょうど期末テスト期間中の東京・品川の区立荏原三中の出来事で、かなりの教務資料を焼失した。同校3年生3人が試験中止をねらって放火したものだった。

▲高値続く野菜（3月6日）農家が作づけを減らしたことや、前年秋の台風や長雨で品薄だったために、野菜が1月以来高騰。この日、都内では白菜2株1200円、大根1本500円などとなった。

共同通信社

昭和55年3月

1（土）●日本原燃サービス（核燃料再処理会社）発足。
2（日）●日米など四ヵ国、円相場安定策実施に合意。
3（月）●水産庁、音波発信試作機でイルカ駆逐実験。
4（火）●アフガニスタンへの建築資材援助を中止。
5（水）●京成電鉄、累積赤字のため大手並み賃上げは不可能と、民営鉄道協会からの脱会を表明。
6（木）●早大総長、商学部の入試問題漏洩を認める。
●海上保安庁、銚子沖の日本海溝で富士山級海山のもぐりこみ現象を、世界で初めて確認。
7（金）●山口百恵、三浦友和との婚約発表し引退表明。
●山陰本線乃木駅に国鉄初の女性駅長が就任。
8（土）●最高裁が記者の取材源証言拒絶権を認める。
9（日）●秩父の音楽寺で初のレコード針供養祭を開催。
10（月）●都銀六行がオンライン提携を開始。
11（火）●前年中に世界で二一基の原発建設中止と判明。
12（水）●筑波大、粒子線医科学センター設立を発表。
13（木）●前年の出国者が四〇〇万人突破と法務省統計。
14（金）●東京地裁、槙枝日教組委員長に四九年の春闘ストの「煽り行為」で有罪判決。
15（土）●三七~五三年に天下りが二六四七人と人事院。
16（日）●美浜原発で蒸気発生機に異常、自動運転停止。
●日韓の学外学習時間は一時間四八分で米英の一・五倍、と総理府の六ヵ国児童世論調査。
17（月）●津地裁、石原産業の長期間の硫酸排出に有罪。
18（火）●労働省、失業保険手当の二二%引き上げ決定。
19（水）●永野日商会頭、総会で武器輸出の可能性示唆。
20（木）●米政府、大来外相に顕著な防衛費増額を要請。
21（金）●共産党、八千代市の「背番号教育」を問題化。
22（土）●中央大、神田から八王子移転で校舎閉校式。
23（日）●栃木県田沼町で石灰残土が崩落。五人死亡。
24（月）●全国住宅検査協会が設立総会。
25（火）●札幌地裁、ポルノ雑誌や映画への税関の「猥褻」検査は、憲法の検閲に該当し違憲と判決。
●都立高入試で五七年度から学校群廃止と決定。
26（水）●政府、国家公務員の週休二日制を実施と決定。
●勤労者世帯の平均貯蓄は四〇二万円と総理府。
27（木）●東京都羽村町の有料老人ホーム向陽会サンメディック、終身入居者三五人を残して倒産。
28（金）●中国から戦後初の学部留学生三二人が来日。
29（土）●全国で放置自転車が八五万台、と総理府調査。
●「情報公開法を求める市民運動」が発足。
30（日）●入浜権運動団体が日本なぎさ保存会を結成。
31（月）●過疎地域振興特別措置法公布（4月1日施行）。
●公取委、石川島播磨など三四社に談合課徴金。

WWP　共同通信社

▲KDD事件で板野前社長逮捕(4月5日)前年に発覚した社長室ぐるみの密輸事件は、この年、密輸で得た巨額の交際費と政界工作の追及に発展。しかし、自殺者を出しながら、板野が業務上横領で起訴されたにとどまった。

▲米、イランの人質救出作戦失敗(4月25日)テヘランの米大使館人質事件解決のため、カーター大統領は大型ヘリ8機で奇襲作戦を敢行したが事故のため失敗。写真はイラン領内に散乱する米軍機や兵士の遺体。

▶銀座で1億円を拾う(4月25日)トラック運転手・大貫久男さん(写真右下)が発見。結局、落とし主は現れず、11月11日に小切手で1億円を取得したが、その間、連日のいたずらや脅迫の電話に泣かされた。

朝日新聞社

▲鑑真和上坐像、里帰り(4月17日)中国で開かれる「日本国宝鑑真和上坐像中国展」に出展するため、奈良の唐招提寺から搬出、この日、1200年ぶりにゆかりの中国・揚州市大明寺記念堂に安置された。

読売新聞社

読売新聞社

共同通信社

▶山下泰裕、敵なし4連覇(4月29日)東京の日本武道館で行われた全日本柔道選手権大会決勝で、遠藤純男を横四方固めで退け、大会連勝記録を更新した。

▶浜田幸一議員、涙のハマコウ節(4月10日)ラスベガスでの賭博で4億6000万円もすっていたことが判明、批判をあびたが、責任をとって衆議院議員を辞職すると発表。11日受理された。

共同通信社

昭和55年4月

1(火)●広島市、一〇番目の政令指定都市となる。
●松田聖子、CM曲「裸足の季節」でデビュー。
2(水)●NHK、受信料滞納者に支払い訴訟を表明。
3(木)●京都の冷泉家、八〇〇年秘蔵の古文書を公開。
●国立予防衛生研究所、遺伝子組みこみによる抗生物質生産菌の生成に成功と発表。
4(金)●勤労者世帯収入は三年半ぶり減少と総理府。
5(土)●警視庁、KDDの板野学前社長を横領で逮捕。
●米映画「クレイマー、クレイマー」封切。
6(日)●東海道新幹線で架線切断。八三本が立ち往生。
7(月)●NHK、日中共作「シルクロード」の放映開始。
8(火)●富士サファリパーク、自然保護団体の抗議を避け、未明に二五五頭を搬入(23日開園)。
9(水)●古紙価格暴騰でちり紙交換車が急増と新聞に。
10(木)●浜田幸一、ラスベガス賭博で議員辞職を発表。
11(金)●警視庁の暴力団集中摘発で逮捕者九一七人に。
12(土)●日米農作物協議、日本の米輸出抑制で合意。
13(日)●米五輪委、モスクワ五輪不参加を決定。
14(月)●石油審議会、輸入量を前年比〇・三%減とする五五年度の石油供給計画を了承。
15(火)●本間正、デザインを競うダイヤモンド・インターナショナル賞でグランプリを獲得。
●深沢七郎、第七回川端康成文学賞を辞退。
16(水)●京王電鉄、多摩地区で深夜バスの運行を開始。
●日本カーバイド工業、人造イクラ製造に成功。
17(木)●日産、米国での小型トラック生産計画を発表。
18(金)●衆院、明日香村保存特別措置法案を可決。
●日本の水産物輸入は世界一、と「漁業白書」。
19(土)●イラン、新原油価格拒否した日本に輸出中止。
20(日)●奈良公園からシカ六、七十頭が市内へ「脱走」。
21(月)●民社党、連合政権要綱発表(25日、公明党も)。
22(火)●タバコ値上げ。セブンスターは一八〇円に。
●東京都消費者センターが、「超音波美顔器」の超音波は微弱で効果なし、と調査結果を発表。
23(水)●都教委、定員削減で教員試験の合格者一六〇〇人(約三割)が自宅待機中と発表。
24(木)●服部時計店、スイスのラサール社の販売部門(ブランド)買収に合意と発表。
25(金)●東京銀座で現金一億円入り風呂敷包みを拾得。
26(土)●低費用の美容体操など人気と「レジャー白書」。
27(日)●高岡市長選で現職が全国初の八期連続当選。
28(月)●任天堂、ゲーム機「ゲーム&ウォッチ」発売。
29(火)●五年間論文なしの学者が二五%と文部省調査。
30(水)●中国東北部への戦後初の慰霊団が成田を出発。

読売新聞社

▲大平内閣不信任案成立(5月16日)KDD事件解明の不実行などで社会党が衆院本会議に提出、自民党反主流派69人の造反で可決した。写真は27年ぶりの異常事態を前にした大平首相で、19日には衆院を解散した。

共同通信社

◀中国の華国鋒首相が来日(5月27日)日中交流2000年の歴史上初めて最高首脳を迎えた。迎賓館での歓迎行事の後、天皇と会談、夜には宮中晩餐会で天皇と乾杯した。写真左が華首相。

証言・あの日この日
松本清張(70)

3月16日(日)〈取材に電車で藤沢へ行く。市内を見て駅に戻り、出札口に「急行券を下さい」というと、駅員は「急行は無い！」と反身になっていう。その横柄な態度を注意すると「急行はありません」とことさらに糞叮嚀にいい直し、うすら笑いをする〉(松本清張『清張日記』)

親方日の丸と呼ばれた国鉄のサービスの悪さは有名だった。〈改札口で「サービス週間」だとかの黄色いリボンを胸につけた小肥りの駅員に窓口の態度をいうと、これまた横柄をわきへ向け、「はい、はい」と面倒臭そうに云うだけ〉。駅のターミナル化が進み列車の種類がふえるとマゴつくのは老人たちだ。〈様子のわからぬ年老いた乗客などを改札口で駅員が叱りおるをよく見るは、かかる駅員の徒輩なるべし〉。国鉄がJRとして分割民営化されるのはこの7年後である。　(坪内祐三)

共同通信社

▲「影武者」、カンヌ国際映画祭最優秀グランプリ(5月23日)日本映画は26年ぶり。写真は俳優ダーク・ボガード(左)から賞状を受ける黒澤明監督。中央は審査委員長のカーク・ダグラス。

▼人工心臓のヤギが生存最長記録達成(5月28日)東大医学部が生存223日目と発表。しかし翌日、東京の三井記念病院で同型のプラスチック製人工心臓を人間に使い、2日後に死亡したことが判明、臨床応用をめぐる議論となった。

朝日新聞社

▼モスクワ五輪不参加を決定(5月24日)ソ連への抗議を呼びかけるカーター大統領にこたえ、日本オリンピック委員会総会で不参加を決めた。これには悔し涙を流す選手も多かった。

読売新聞社

昭和55年5月

1(木)●犯罪被害者等給付金法交布(56年1月施行)。
2(金)●日教組、給食から添加物排除を文部省に要請。
3(土)●日本山岳会、チョモランマ北東稜から登頂。
4(日)●六歳以下の骨折は一〇年で倍増と日教組調査。
●東京六大学野球で東大が初めて早大を連破。
●ユーゴのチトー大統領死去。
5(月)●千葉県富山町で駒大助教授を革労協が殺害。
6(火)●岡山スモン訴訟で患者六人と製薬三社が和解。
7(水)●政府、自動車部品輸入関税の原則撤廃を表明。
8(木)●警視庁、東海地震警戒宣言下の警備計画決定。
●WHO、世界から天然痘根絶と公式に宣言。
9(金)●光化学スモッグは角膜を損傷と都公害研発表。
10(土)●大学の新入生歓迎コンパで急性アルコール中毒が続出、東京消防庁の救急車出動が三四回。
11(日)●省エネ時代を反映し圧力鍋がブームと新聞に。
12(月)●福岡県の柳川高、修学旅行では初の中国訪問。
13(火)●公取委、千葉市と豊橋市の医師会による開業制限を、独禁法違反とし両医師会に排除勧告。
14(水)●浦和市で化学工場が爆発。一四人死傷。
15(木)●松下精工、身障者だけの工場を設立と発表。
16(金)●衆院で内閣不信任案可決。自民反主流派欠席。
17(土)●民法改正公布。配偶者に二分の一の遺産相続。
●医師試験合格が二九年ぶりに六〇〇〇人突破。
18(日)●韓国政府、全土に非常戒厳令を拡大。
●米国のセント・ヘレンズ火山が大噴火。
19(月)●衆議院解散。史上初の衆参同日選挙が決まる。
20(火)●山口組系の二百余人が千歳空港に到着、道内の反山口組系の五百余人とにらみ合う。
21(水)●熊本地裁に水俣病第三次訴訟が起こされる。
22(木)●飛鳥田一雄社会党委員長、連合政権実現のため非武装・中立政策の一時棚上げを表明。
23(金)●稲山嘉寛新日鉄会長、経団連第五代会長に。
●「影武者」がカンヌ映画祭で最優秀グランプリ。
24(土)●日本五輪委員会、モスクワ五輪不参加を決定。
25(日)●全国自然保護大会、「空き缶追放」のため国立公園などの自動販売機を撤去するよう決議。
26(月)●東名高速で七件のスリップ事故。三人死亡。
27(火)●韓国の戒厳軍が光州市に突入し、学生・市民多数を虐殺、二九五人を逮捕(光州事件)。
●華国鋒中国首相が来日(~6月1日)。
28(水)●プロ野球の張本勲が三〇〇〇本安打。
29(木)●日中の渤海南・西部石油共同開発契約に調印。
30(金)●石油代替エネルギー開発・導入促進法公布。
31(土)●大平首相、東京都港区の虎の門病院に入院。

▲パンダのカンカン君急死（6月30日）47年に中国から日中友好を託されて、雌のランランとともに上野動物園に贈られてきた1頭で、死因は心不全。多数の子どもたちがパンダ舎に花を供えた。

▶初の衆参同日選挙で弔い合戦の自民党が圧勝（6月22日）74.57パーセントの高い投票率の中、党首・首相の大平正芳を12日に失った自民党が結束、衆院284、参院69と両院で多数を獲得した。

▼高級家具で覚醒剤を密輸（6月24日）釜山発の大韓航空機で大阪空港に着いた4点が異常に重いため、税関が調べたところ、20キロ（末端価格60億円）分の覚醒剤を発見。後に荷受人の会社社長が逮捕された。

▲アメリカに徴兵登録制復活（6月12日）上院でカーター大統領が提案した登録制を可決したが、女子の登録は実現しなかった。写真は2月、アイオワ州の大学での反対集会。

▲青木功が全米オープンゴルフで堂々の2位（6月15日）1位は国際4大トーナメントで8年ぶり、新記録の4度目の優勝を飾った「帝王」ジャック・ニクラウス（左）。写真は健闘を讃え合う2人。

▶警視庁新庁舎完成（6月26日）皇居桜田門の前に地上18階、地下4階の高層ビルが出現した。設計は最高裁と同じ岡田新一、総工費340億円。空母のような屋上にはヘリポートができた。

昭和55年6月

1（日）●気象庁、東京地方で「降水確率予報」を開始。
2（月）●政府、医薬品などをのぞく対イラン禁輸実施。
3（火）●労働省、女性の定年が五五歳未満の企業に、「男性並み」にするよう行政指導を強化と発表。●高見山、帰化が認められ渡辺大五郎と改名。
4（水）●ILO、日本語を公認用語に。国際機関で初。
5（木）●公取委、火災報知機工業会を談合容疑で検査。
6（金）●都内一〇一〇社が総会屋追放の協議会を結成。
7（土）●年功序列賃金が崩壊の傾向と労働省賃金統計。
8（日）●日本野鳥の会、苫小牧市のウトナイ湖畔で自然センターの起工式。初の「野鳥の聖域」。
9（月）●ユネスコ、パリで軍縮教育世界会議を開催。
10（火）●春闘の賃上げ集計。大手平均一万二〇二三円。
11（水）●南アルプス林道（五六・九キロ）が開通。
12（木）●大平首相が、心筋梗塞で急死。
13（金）●厚生省、コレラ汚染のタイ産エビ焼却を命令。
14（土）●京大の核融合研究センター、世界最大規模の粒子加速装置ヘリオトロンEを完成。
15（日）●五島列島沖の海上貯油施設建設に漁協が同意。
16（月）●ダイエー、米Kマート社との業務提携を発表。●大阪地裁、連続通り魔事件（52年）で、犯行時の被告は心身喪失状態として無罪判決。
17（火）●広島県府中市で香料工場が爆発。三人死亡。
18（水）●米上院、日本車輸入規制を示唆する決議。
19（木）●瀬戸内の貽貝が有機塩素系農薬で汚染と判明。
20（金）●医師が所得隠しに利用する薬品卸のトンネル会社が七九六社、と厚生省が発表。
21（土）●故棟方志功の偽作版画を販売した名古屋の百貨店を、著作権法違反で棟方夫人が告訴。
22（日）●初の衆参同日選挙。両院で自民党圧勝。
23（月）●日・ブラジル合弁のツバロン製鉄所が起工式。●原子力安全委、原発の安全確保の方針を決定。
24（火）●シャープの創立者・早川徳次死去。
25（水）●プロ野球規則委員会、「飛ぶボール」と「圧縮バット」の使用禁止を答申。
26（木）●静岡県大仁町で女性を車に監禁して逃走し、警官を射殺した暴力団員二人が逮捕される。●バチカン枢機卿委、条件つきで安楽死を承認。
27（金）●小型タクシーが復活。初乗り運賃三七〇円。●ソ連偵察機が佐渡島北方に墜落。三人死亡。
28（土）●メキシコ政府との原油売買契約による輸入第一船が、鹿児島県の日石喜入基地に入港。
29（日）●群発地震続く伊豆半島沖でM六・七の地震。
30（月）●上野動物園のパンダ「カンカン」が急死。

20世紀博物館
日本カメラ博物館 東京・千代田区
名機六〇〇〇台、スグレモノが放つ感動のオーラ

桑原茂夫

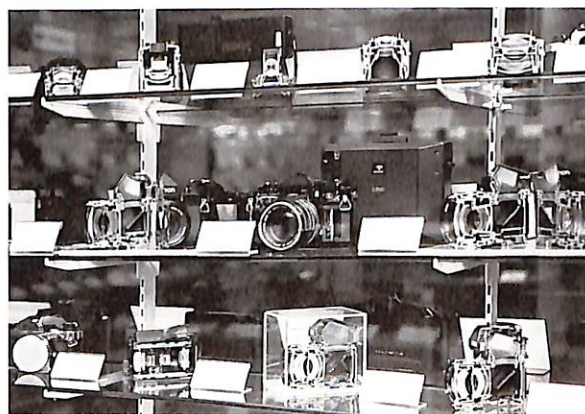
▲世界中で数台しか現存しない「ジルー・ダゲレオタイプ・カメラ」。

▶日本のカメラ工業の原点とされる、小西本店（現・コニカ）の名機「チェリー手提暗函」。

今では〝使い捨て〟の形容句を持つカメラも出まわるほど、写真は取り扱いの容易な一般向けメディアとなっているが、わずか一五〇年ほど前、写真が発明されたばかりの揺籃期には、特殊な技術と知識を駆使しなければならない、専門家向けのメディアであり、リアルな世界が平面に〝像〟として再現される驚異的な道具であった。

その時代の、まさに〝写真術〟がフランスの科学アカデミーで正式に新技術として認められ、初めて世に出た記念すべきカメラが、このカメラ博物館にあって、常設展示されている。

〝写真術〟の発明者の栄誉を担うダゲール（一七八七〜一八五一）の名を冠した「ジルー・ダゲレオタイプ・カメラ」がそれで、世界でも数台しか残っていない貴重な一台なのである。あんまり立派な姿かたちなので、一見するとレプリカか何かのようにも思えるが、ホンモノなのである。

古いモノで貧弱に見えたりするのは、そのモノ自体にもともと貧弱なところがあるからで、いいモノはいつまでたってもいい。その当時の人々の思いがありありと浮かび上がってくるようにさえ感じられる。この博物館には、そうした個々のカメラにこめられた思いが不思議なパワーとなって交錯している。

▲カメラの複雑な構造が一目でわかるコーナーもある。

最先端カメラのあれこれ

日本で製造・販売されたカメラが、時代を追って常設展示されているコーナーも、なかなかパワフルで、モノを作る、モノを使う、そのいい雰囲気を感じさせるスグレモノばかりである。

たとえば、昭和一〇年に発売された「ハンザキヤノン」という機種。これは「精機光学研究所」という、キヤノンの前身にあたる会社の最初の製品だが、当時カメラ専門店として知られた「近江屋写真用品」のブランド名「ハンザ」をその名につけた三五ミリカメラで、レンズは「日本光学工業（現・ニコン）」のもの。つまるところ、時代の最先端を行くカメラであった。

ほかに、戦前のいわば写真入門機ともいうべき簡易カメラ「トウゴーカメラ」。これは、撮影したフィルムをその場で現像定着することができるシステムになっていて、現像液に浸したフィルムに像が浮かび上がってくる〝写真術〟の〝術〟たるゆえんを、肌で感じ取ることのできる「写真機」だった。

このように、ちょっと見にはひっそりとしている館内も、実はそのひとつひとつと対面していくと、にぎやかなことこの上ない空間なのである。

この博物館は、昭和二九年に設立された財団法人・日本写真機光学機器検査協会が、本来の業務である輸出カメラの品質チェックに加えて、歴史的カメラの認定・保存も行うようになり、そうして収集されたカメラ（現在六〇〇〇台余り）を所蔵、一般公開する目的で平成元年末に開かれた。

なお、常設展示のほかに常に特別企画の展示も行っていて、今春（五月二一日まで）は「写真の楽しさを無限に広げる道具展＝自由な写真表現のための脇役」が催されている。

●日本カメラ博物館
東京都千代田区一番町二五
JCII一番町ビル
☎〇三—三二六三—七一一〇
地下鉄半蔵門線半蔵門駅から徒歩三分
開館時間＝一〇時〜一七時
休館日＝月曜日（休日の場合は翌日）

▲カメラが好きな人のための「友の会」もあると、館の平尾琢也さん。

ベストセラー

“タレント”本の新しい波『蒼い時』と『わッ毒ガスだ』

この年、発売わずか一ヵ月で一〇〇万部を突破するという超スピード・ベストセラーが生まれた。芸能界引退の決意を表明した山口百恵の自伝的著書『蒼い時』である。

従来のタレント本と決定的に違っていたのは、ゴーストライターを使わず、プロデューサー・残間江里子の勧めもあって、みずからの手で率直に書いたという点であり、それはおのずと、タレント本というより、時代から突出した一人の女性の半生を振り返った本として、新しい分野を切り開くだけの力を持っていた。

同じ頃に刊行され、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」に代表される、多くの衝撃的フレーズを流行させた『ツービートのわッ毒ガスだ』も、表題どおり、時代に対して毒を放つ過激な側面を持っており、単に名の知れたタレントが著者になっている本というレベルのものではなかった。ツービートの一人、ビートたけしのその後の活動を見ると、この本がベストセラーに名をつらねた理由が、けっして“タレント本”にあったわけではないということが明白になる。

雑誌の方は、出版史上稀にみる創刊ラッシュの年で「写楽」(小学館)、「スポーツグラフィック・ナンバー」(文藝春秋)、「ブルータス」(マガジンハウス)などと並んで青春出版社も初めての雑誌「ビッグ・トゥモロウ」を創刊した。あくまでも読者、つまり悩み多い若者の側からの編集を心掛け、読者・編集者間の直通電話を前面に押し出すなどして、従来の雑誌イメージを打ち破り、成功裡にスタートしたのである。

●昭和55年のベストセラー

順位	書名
1位	『蒼い時』(山口百恵/集英社)
2位	『ノストラダムスの大予言』(I・II/五島勉/祥伝社)
3位	『ツービートのわッ毒ガスだ』(ツービート/KKベストセラーズ)
4位	『項羽と劉邦』(全3巻/司馬遼太郎/新潮社)
5位	『人生抄』(池田大作/聖教新聞社)
6位	『自分のお金をどうするか』(野末陳平/青春出版社)
7位	『My Sex』(奈良林祥/KKベストセラーズ)
8位	『四季・奈津子』(上下/五木寛之/集英社)
9位	『公文式数学教室』(公文公/公文数学教育センター)
10位	『55年版頭のいい税金の本』(野末陳平/青春出版社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『蒼い時』(集英社、880円)

▲『ツービートのわッ毒ガスだ』(KKベストセラーズ、650円)

▲「ビッグ・トゥモロウ」(青春出版社、390円)

スターと名場面

映画は黒澤絵巻に清順美学そしていよいよ松田聖子登場

一九八〇年は、時代のターニング・ポイントとなるような出来事が続いた。

ひとつは、黒澤明監督が久しぶりにメガホンをとって、戦国絵巻とでも言うべき一大スペクタクル映画「影武者」を撮ったことである。黒澤監督の構想を現実のものとするには巨額の製作費を必要としたが、二〇世紀フォックスがその一部を出資し、フランシス・コッポラとジョージ・ルーカスが海外版のプロデューサーとなって、海外にも配給するという国際的な製作体制をとることによって、初めて撮影可能になった。キャストを、プロの俳優を含めた公募のオーディションで決めたり、富士山麓に壮大なオープンセットを築くなど、型破りのスケールを持つ映画製作となった。

また、日活を追われてからほとんど映画を作れなかった鈴木清順監督が、一匹狼的プロデューサーの荒戸源次郎と出会い、傑作「ツィゴイネルワイゼン」を撮った。清順美学を縦横に展開したこの映画は、シネマ・プラセットという移動式小型ドームを映画館として公開され大ヒット、新しい映画のあり方をも示した。

松田聖子のデビューもこの年。「ぶりっ子」という揶揄をものともせず、堂々と自分の世界を築き上げ、レコードの売り上げ記録を次々に塗り替えていった。

黒澤プロ　東宝提供

▲信玄の影武者(手前＝仲代達矢)と山県昌景(大滝秀治)ら側近との関係も面白い「影武者」。

キネマ旬報社提供

◀「ツィゴイネルワイゼン」、写真右が大楠道代、左は原田芳雄。

▶◀松田聖子のデビュー曲「裸足の季節」(左)と二作目「青い珊瑚礁」(右)。

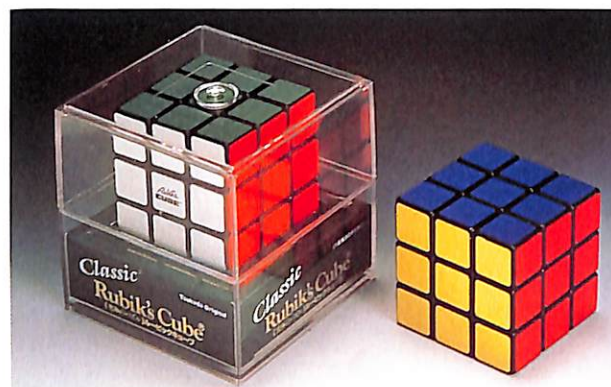
ソニーレコード提供

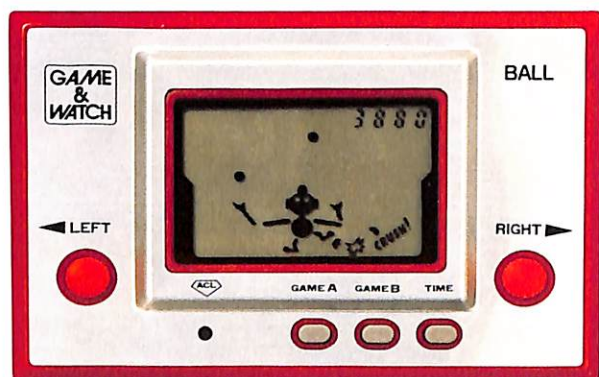
モノ語り'80

「チョロQ」「ポカリスエット」などヒット商品のカギは“遊び”に“健康”

▼キャラクターつきデジタルウォッチ　クオーツの腕時計が普及するにつれて、腕時計のイメージは変わった。サンリオの「キティ・デジタルウォッチ」もそんな流れの中から生まれたヒット商品で、少女たちの人気を呼んだ。3980円と手頃な価格でもあった。

▲ぜんまい・パワーを再認識させた「チョロQ」　玩具のタカラが発売した「チョロQ」は、超小型のぜんまい自動車だが、ぜんまいのほどけ方にひと工夫こらした独特のメカニズムがもたらすスピードとパワーには、抜群のものがあり、比較的大きなミニチュアカーを載せて走らせるなど多様な楽しみ方を可能にした。今も根強い人気を保っていて、価格も当初の390円を維持している。

◀健康志向にフィットした飲み物　大塚製薬から「ポカリスエット」(250ミリリットル缶・120円)が発売され、スポーツドリンク市場が一気に広がったのはこの年だった。それまではアメリカの「ゲータレード」が、アメフト選手など一部で知られてはいたが、一般市場にまで広がらなかった。ところがアルカリ性イオン飲料として、いかにも体によさそうな味と雰囲気の「ポカリスエット」が発売されるや、この年だけで94億円を売り上げ、新しいスポーツドリンク市場を築き上げてしまったのである。

▲単純ながら難しい立体パズルが一世を風靡　7月に発売され、年内だけで400万個も売れた「ルービック・キューブ」は、ハンガリーのルービック教授が考案した立体パズル。アメリカを経由して、ツクダオリジナルが輸入販売した。1980円という、パズルとしては高い価格であったにもかかわらず、立方体を構成する各面を動かして色を合わせるという知的な雰囲気と、高難度という要素が重なって、爆発的なヒット商品となった。

▶マイコンゲームの強力トップバッター　デジタルウォッチにマイコンゲームを組み合わせた「ゲーム＆ウォッチ」が、後にファミリーコンピュータでマイコンゲーム世界を席巻した任天堂から発売され、2年間で1000万個を超えるヒット商品になった。この年に売り出されたのはシルバーシリーズで各5800円。けっして安くはないが、子どもがたっぷり小遣いをたくわえていた時代とあって、飛ぶように売れた。

◀おしりを洗ってしまうトイレ　東陶機器(通称・TOTO)が、アメリカ製の温水洗浄機能つき便座を、日本人向けに自社製作・発売してトイレ革命を起こしたのが「ウォシュレット」で、温め方が違うG型(写真、14万9000円)とS型(8万6000円)が同時に発売された。開発にあたっては、使い勝手のよさを追求するために、温水がおしりにあたる角度や温水の噴出力など、具体的に細かく収集したデータを用いたという。ウォシュレットという名前は、洗う＝ウォシュとトイレットという商品機能を表現した合成語。

◀糸で歯磨きというユニークさ　ジョンソン・エンド・ジョンソンが一般向けに発売した「デンタルフロス」は歯の間にはさまったかすをきちんと取るという具体的な効果が、健康志向にフィット。50ヤード660円という高めの価格にもかかわらず浸透していった。

人物クローズアップ

向田邦子（五〇）

「大人の視線で、物語づくり」名脚本家から直木賞作家に

七月一七日、向田邦子（五〇）の短編三作「花の名前」「かわうそ」「犬小屋」が、志茂田景樹の『黄色い牙』とともに、第八三回直木賞を受賞した。

向田の受賞作品は「小説新潮」に二月から連載中だった連作短編小説「思い出トランプ」の一部で、選考委員の一人、山口瞳は「物語づくりにかけては抜群の才能。私よりうまい」（「朝日新聞」）と絶賛し、八月六日の授賞式では水上勉が「現代の話を書いていて、独特のまなざし、大人の視線があり、人の耳の裏、背中をピシッとみている」（同紙）と評した。この時、向田はすでにテレビドラマの脚本家として著名だった。

向田邦子（本名）は昭和四年東京生まれ。「パンは残せても、御飯は残せない」という戦中世代で、実践女子専門学校（現・実践女子大学）国語科を卒業後、雄鶏社の雑誌「映画ストーリー」の編集者を経て放送作家となった。

最初に手がけたテレビ台本は三三年の「ダイヤル一一〇番」。その後、三七年から四四年まで「森繁の重役読本」のラジオ台本を単独で執筆し、ホームドラマ全盛期の四〇年代には「七人の孫」「だいこんの花」「時間ですよ」「寺内貫太郎一家」で茶の間の話題をさらった。

しかし、五〇年の乳癌手術をきっかけに向田に大きな転機が訪れる。

手術とその後の輸血による血清肝炎に悩まされたことが、活字の世界へ踏みこむ契機となり、五一年から雑誌「銀座百点」に家族を素材としたエッセイ（「父の詫び状」）を連載。久世光彦は自著『触れもせで』で次のように記す。

「あっという間に消えていくテレビドラマの儚さが急に寂しくなって、活字として残るものが欲しくなったのだろう」

一方、こうした心境の変化はテレビドラマにも反映され、五〇年代なかばには、「阿修羅のごとく」「あ・うん」など辛口ドラマの名作を生み出し、脚本家の存在価値を高めることに大きく貢献した。

この間、癌再発への不安の中で、五三年に妹・和子と小料理屋「ままや」を東京・赤坂に開店、小説は翌年から本格的に書き始めたばかりであった。

向田は直木賞授賞式で「新しい分野のスタートラインに立ててうれしいし、スリルもあります。健康に不安もありますが、耳元でピストルが鳴った以上走らざるをえない」と抱負を語ったが、翌五六年八月二二日、台湾取材旅行中に航空機事故で死亡。多磨霊園にある父の眠る墓に葬られた。

五八年、向田邦子賞が制定され、三回忌の際、森繁久弥の挽歌「花ひらき　はな香る　花こぼれ　なお薫る」が刻まれたブック・タイプの墓碑が建てられた。

▶連作短編集『思い出トランプ』（新潮社）。◀第八三回芥川・直木賞授賞式会場で、同時受賞の志茂田景樹氏と。八月六日、東京会館。

文藝春秋提供

▲昭和55年、東京・青山のマンションで愛猫（左がマミオ、右がチッキイ）を抱いて。「週刊朝日」提供

決定的瞬間

山頂四〇〇メートルが吹き飛んだ！「ワシントン富士」大噴火の驚異

「バンクーバー！　バンクーバー！　噴火発生。こちらは……」

第一報を伝える無線の絶叫は、そこでとだえた。一九八〇年五月一八日午前八時三〇分（日本時間一九日午前零時三〇分）すぎ。米国地質調査所の科学者、デイビッド・ジョンストンは、この年の三月下旬に一二三年間の眠りからさめて火山活動を始めていたセント・ヘレンズ山（北米大陸西海岸、ワシントン州、標高二九四九メートル）の山頂付近の膨脹を、北方九キロにある尾根から観測していた。熱風に襲われる直前、ワシントン州バンクーバーの本部へ急を知らせたのだ。

北米大陸で有史以来最大の規模となったその日の噴火は、火山内部で起きたマグニチュード五・〇の地震をともなった。

水蒸気爆発と同時に、山頂部の北斜面が滑り落ちた。爆発音は三〇〇キロ離れた場所でも聞こえたという。高温の火山ガスと水蒸気の衝撃波が五五〇平方キロの森林を突き抜け、調査技師や森林労働者、カメラマンなど五七人の命を奪った。

連鎖的に、マグマを流出させる大爆発、火砕流、雪を溶かした土石流が発生。崩壊物は山頂から二八キロ、高度差二六〇〇メートルを一〇分たらずで滑り落ちた。麓のツートル川支流では、押し流されてきた樹木や土砂で高さ六〇メートルのダムができた。

火山灰は一万五〇〇〇メートルまで噴き上がった。一帯は夕暮れのように暗くなり、風下一五〇キロの街でも自動スイッチの街灯が一斉にともったという。地上に降った火山灰は農業地帯に大被害を与えたほか、視界不良やキャブレター故障で飛行機や自動車を止め、停電や電話不通を招いた。さらに、火山灰は偏西風に乗って地球を一周。日射量減少による世界的冷害が懸念されたが杞憂に終わった。

この日の噴火は九時間続き、「ワシントン富士」とも呼ばれた山容は一変。標高は四〇〇メートル以上低くなった。爆発力の強さは「広島に落とされた原爆の二五〇〇倍と推定」（「読売新聞」五月二六日）された。また、噴出した火山灰や軽石の量は、紀元七九年にイタリアの古代都市ポンペイを埋没させたベズビオ火山の降灰量に匹敵すると、地質学者は推測した。

荒廃した広大な山腹一帯を空から視察したカーター大統領は「この災害地に比べたら、月面はゴルフ場だ。世界でこんなにひどい光景はほかにない」と驚嘆の言葉をもらした。

このシーンを撮影したカメラマンはゲーリー・ローゼンクイスト。彼は車で現場へ駆けつけ、決定的なショットをファインダーにおさめた。この一連の写真は「ナショナル・ジオグラフィック」一九八一年一月号に掲載され、世界の話題を呼んだ。

◀セント・ヘレンズ山の噴火で、火山灰は1万5000メートルまで噴き上がった。この噴火により雷が発生、落雷で無数の火事が発生した。被害総額は約16億ドル。

▼噴火前は端正な姿のセント・ヘレンズ山だったが、噴火により山頂部の北斜面が滑落、山容は一変した。

ゲーリー・ローゼンクイスト／EARTH IMAGES／Nature Production／アメリカン・フォト・ライブラリー（2点とも）

美の出会い

「描くことは祈ること」国民画家・東山魁夷
唐招提寺障壁画を完成

日本を代表する画家・東山魁夷（七二）が、九年の歳月をかけて制作していた唐招提寺・御影堂の障壁画がこの年二月、ついに完成した。東京・名古屋・大阪・神戸を巡回した「東山魁夷第二期唐招提寺障壁画展」には未曾有の大行列ができ、開催したデパートの関係者を驚かせた。翌五六年、最後に完成した「鑑真和上厨子絵『瑞光』」と障壁画の一部を出品した東京国立近代美術館の「東山魁夷展」では、入場者が三〇万人を超した。

そもそも東山魁夷がこの大作にとりかかる決意をしたのは、九年前の昭和四六年のこと。日本経済新聞社の円城寺次郎社長を通じて、唐招提寺の森本孝順長老が御影堂の障壁画の揮毫を希望しているという話を聞いたのがきっかけだった。

「私はまず自分の非力を恐れる気持ちが強かった」と彼は回想する。半年ほど考えたすえ、「鑑真和上の強い精神力への鑽仰の心」から「いっさいを任せてくれるなら」という条件つきで引き受けることにした。

東山魁夷は障壁画を構想するにあたり、まず肖像彫刻の傑作であり、かつ国宝に指定されている「鑑真和上坐像」に対面した。失明した和上の眼に映っているのはどんな風景であろうかと思いめぐらしたのである。一二年の歳月をかけて、ようやく日本の土地を踏むことができたが、実際には見ることのできなかった美しい日本の風景を和上にささげたいと思いいたり、第一期の「上段の間」と「宸殿の間」の構想が決まった。

彼は時を移さず、日本の海、ついで日本の山のスケッチ旅行に出発した。青森県竜飛崎から熊本県天草まで、海を求めた長い旅。富山県黒部峡谷から東北や四国への、山を求める旅。手元にたまった膨大なスケッチをもとに、昭和五〇年、第一期の作品「山雲・濤声」が完成した。

「和上の閉じられた瞼の奥に映る風景を想像しますと、今度はどうしても故国中国の風景を描かねばならない」という思いにかられ、次に中国へのスケッチ旅行に出かけた。こうして第二期の「揚州薫風」「桂林月宵」「黄山暁雲」などが完成したのである。

「御影堂の障壁画は、全て眼の見えない和上に、谷から霧の立ち昇る風の音、滝の音、杜鵑の声、波の響きを、そして和上の故里の湖畔の柳の葉ずれの音などをお聴かせしたいとの構想のもとに描きました」と、彼は後に記している。

東山魁夷は明治四一年、横浜に生まれた。彼を評して作家の井上靖は「王道を歩く画家」と言ったが、東山は昭和二二年の「残照」、二五年の「道」を発表するまでは、ほとんど注目されることがなかった。しかし「道」以降、「描くことは祈ること」という東山魁夷の穏やかで心の安らぐ作品に引かれる人は、次第にふえていった。そして、この唐招提寺の障壁画で、彼は「国民画家」と呼ばれるまでになったのである。

現在、この障壁画は開山忌の六月六日からの三日間と、秋の観月法会の夜に公開されている。

▲◀東山魁夷は、唐招提寺の御影堂障壁画の画想を練るため、昭和五三年から三年続けて中国を訪れ、それはこの年、第二期制作の水墨による作品に結実した。写真はそのうちの「黄山暁雲」。安徽省南部の黄山の谷間から湧き上がる雲を主題に、幽遠な山景を描いた精神性の高い作品と評価されている。

東山魁夷提供

▶「黄山暁雲」を制作中の東山魁夷。水墨画は、薄くすった墨を何度も塗り重ねて濃淡を出す。

東山魁夷提供

「現場」を歩く
京都
八〇〇年の眠りからさめた冷泉家「古文書」の今

山本徹美

但馬一憲／岡墨光堂協力

▲重要文化財指定の『明月記』は、現在、岡墨光堂の手により修復作業がなされている。

京都観光名所のひとつにもあげられる冷泉家は、京都御所の近くにあり、屋敷はかなり広く約二四〇〇平方メートル。訪れてみると、三方を同志社大学の広大なキャンパスに囲まれながらも、そこだけ象嵌したかのごとく異質な雰囲気を漂わせ、ひっそりとたたずんでいた。

門をくぐると改築中の家屋が現れた。松や杉などの柱と梁が縦横に交錯している。国の重要文化財「冷泉家住宅」台所棟である。現存する唯一の公家屋敷で、寛政二年（一七九〇）以来の修復工事中とのことだ。釘を一本も使わない工法とあって、棟梁と大工たちが図面を開いて額を寄せ、ひそひそと相談していた。

冷泉家の家祖は藤原長家で、その父親はかの太政大臣・藤原道長。血脈には俊成、定家、為家という平安、鎌倉期を代表する歌人がいる。その末裔となればさぞかし格式高く古風では、と思いきや、お会いした冷泉貴実子さん（冷泉家時雨亭文庫財団事務局長）は気さくで、訊くと、もと高校の社会科教諭だったとか。

山陰本線
烏丸通
冷泉家
京都御苑
東海道本線
京都駅
東海道新幹線

▼昭和55年4月1日、冷泉家で古文書類の公開に立ち会う当主の冷泉為任氏（中央）と布美子夫人。

共同通信社

「お文蔵」公開の内幕

昭和五五年四月四日、「朝日新聞」はトップニュースで「冷泉家古文書を公開」と報じた。八〇〇年もの間、五棟の蔵に秘蔵されてきた文献類は、学術調査によって「日本史を書き変えるか」と、話題を呼んだ。冷泉貴実子さんが振り返る。

「公開したのは四月一日でした。私が教師をしており、その日しか空いてなかったので。新聞社は何社か来ていましたがどこも取り上げず、その程度の価値なのかな、と少し気落ちしていたんです。それが、三日後大騒ぎになって」

文化庁などが調査した結果、『古来風躰抄』（俊成）、『古今和歌集』『後撰和歌集』（定家筆）が国宝に指定され、『明月記』をはじめ重要文化財指定は三五件を超えようとしている。それにしてもなぜ、このような「家宝」を公にする気になったのか。

「ひとえに税金です。父（為任氏・故人）が定年退職し、税のことが重くのしかかってきた。もし、相続税を払う段にはどうなるのか。税務署からは数十億円と言われていて、やむなく免税措置が受けられるようにしました」

古文書類の納められた土蔵を冷泉家では「お文蔵」と呼び、「神さんのやどはる所」として畏れ敬ってきた。神格化して崇拝し続けたからこそ、八〇〇年間に発生した幾多の天変地異、政変、戦火から守りぬくことができたといえよう。

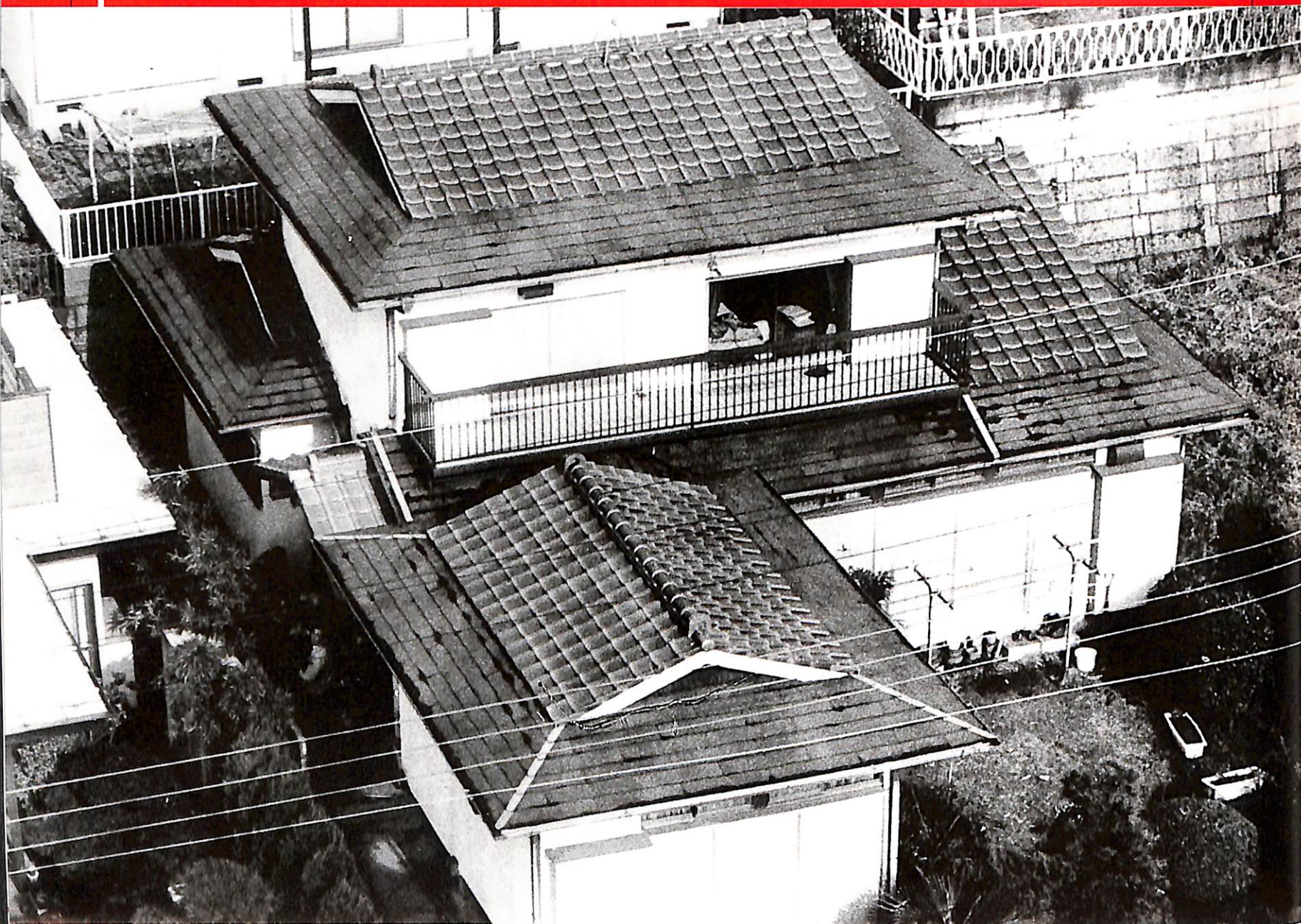
「もしも国に献上していたら、残っていなかったでしょう。朝廷は、最初に火を放たれる場所ですから」

が、さしもの冷泉家も「税」という攻撃には抗し切れなかったと言うべきか。かつては天皇の庇護もあって、課税どころか「勅禁」という手段がとれたのだが。

重文指定の『明月記』や家屋の修理には八億三〇〇〇万円かかり、そのうち、億八四〇〇万円を財団が負担する。

「どうやって捻出するか、頭が痛い」

文化と経済の攻防は今後も続く。

親殺しにまで発展した家庭内暴力！「金属バット殺人事件」はなぜ起きたか

▲この頃の地価上昇率日本一、渋谷から約20分の距離にある川崎市の新興高級住宅地。11月29日午前2時半頃、この住宅地の典型的な中流家庭で、惨劇は起きた。共同通信社

昭和四五年頃から、〝少子化〟傾向とともに、閉鎖的で過保護という環境の中で育てられた子どもたちの、自分の家族、特に親に対する、いわゆる〝家庭内暴力〟が目立ってきた。その根底には、敵意や対立より、甘えや依存が見られる。その典型が「金属バット殺人事件」だったのではないだろうか。ありふれたどこの家庭でも起きかねない不気味さが、社会全体に強い衝撃を与えた。

本人ですら「わからない」殺害のあいまいな動機

就寝中の両親めがけて次男がバットを振り下ろしたのは、昭和五五年一一月二九日の午前二時半頃。父親（四六）は声

▲犯行に使われた金属バット。少年は幼い頃、プロ野球選手に憧れていたという。共同通信社

▲11月30日、犯行のあった家から証拠品を運び出す捜査官。共同通信社

を立てる間もなく頭を割られて即死。物音にきづかず別室で寝ていた母親（四六）をも、続けてまったく同様に殺害した。

二人の傷はいずれも頭と顔にだけ集中しており、そのむごたらしさは、その朝現場検証にあたった警官たちが一瞬たじろぐほどだった。部屋の中は、血しぶきが天井に達するほどの血の海。二人とも顔から頭頂部にかけてパックリと頭蓋骨が割れ、脳漿が飛散。人相もわからないほどだったという。

次男は二〇歳になったばかりの青年……というよりも、顔にまだ幼さの残る少年だった。犯行後、彼は返り血をあびた服を着替え、金属バットを風呂場で洗い、強盗殺人に見せかけようと室内を荒らして第一発見者をよそおった。だが、翌三〇日になって自分から犯行をほのめかし、逮捕される。

「少年」は早大など多数の大学入試に失敗し、二年目の浪人生活を送っていた。

一方、父親は東大卒で、母親は短大卒。さらに長男も早大卒で、しかも父親と兄は「一流会社」に勤務していた。新聞は「孤独な次男『ひけ目』暴走」「入試に破れ落差感・エリート家庭内で屈折」などと報じた。

逮捕後、「少年」は取り調べに素直に応じ、殺害の状況はただちに明らかとなった。しかし、動機だけがどうしてもわからない。「この子には反抗期がない」と母親が言うほど、彼は子どもの頃からずっと「いい子」だった。その後の裁判でも「キャッシュカードを抜き取り、一万円引き出したことで父に叱られ、足蹴にされたから」と繰り返すばかり。

そのいさかいがあったのは、犯行の前夜。叱られた後、ヤケになって自室でポケット瓶のウイスキーを飲んでいるのを、再び父親にとがめられた。

「『おまえ、酒まで飲んでいたのかっ！ウチにドロボウを飼っておくわけにはいかない。明日すぐ出ていけ』と、わき腹を蹴とばされ……イスごと転げた」（「朝日新聞」昭和五五年一二月五日）

しかし彼が犯行におよんだのは、両親が寝静まったその二時間後。つまり「衝動的に、ついカッとなって」の犯行では、かならずしもなかったのだ。

本人が「大好きだった」という母親まで殺した理由についても、彼は公判でこう証言した。

「別に両親を区別して考えたんじゃなくて、一緒にしちゃったような感じで、どうもはっきりしません」

懲役一三年の判決が言い渡されたのは、事件から四年後の昭和五九年四月二五日。求刑より五年軽く、「もともと性格が未熟で情動が刺激されやすい上、二浪中の不安定な心理状態」にあったことなどが理由とされた。

「本件は裁判所としても心の重い事件だった」。判決公判の最後で裁判長がつけ加えた言葉が、事件の特異な性格をものがたっていた。

「学歴社会はすでに崩壊」それでも根強い学歴信仰

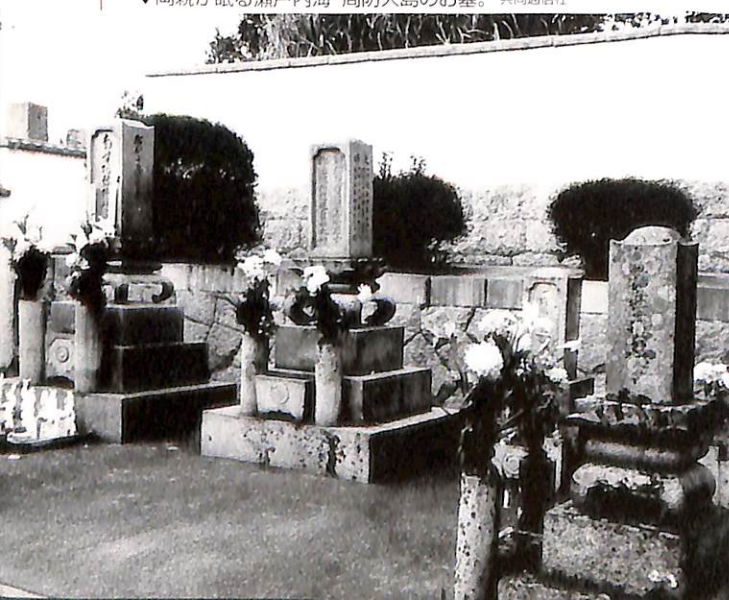
なぜこのような悲劇が起こったのか。深谷昌志静岡大学教授は「家庭環境は彼に大学進学というひとつの道しか残さなかった。行く手をふさがれ袋小路に入った彼にとって、親はストレスをかけてくる存在でしかなかったのでしょう。当然その親をはねのけないかぎり、自分の救われる道はないと思ったに違いありません」と語る。

事件から一七年、学歴社会は崩れつつある。しかし、〝学歴信仰〟だけは今も根強く残っている。

「どこへ進学しても実質的には何の違いもない高校受験に厳しい競争が残っているように、大学受験においても競争意識がいまだ強い。そうした矛盾は、学歴が機能していた親の世代の認識と現実との間のズレによるものだと思います。事件が起きた頃と比べてさえ、今の方が実際にはずいぶんムダな競争をしているように見えます」

そうした〝ムダ〟で苛酷な競争の結果なのか、「人間関係のトラブルなどの問題解決の仕方を知らない子どもがふえ、親たちも、子どもの行く末にしっかりとした方向を指し示すことができない閉塞した状況に置かれている」とも指摘する。

何かトラブルがあった時に、そのマグマが思わぬ方向に噴出しかねないということであろう。オウム事件もその表れなのかもしれない。

▲昭和56年3月6日、初公判が開かれた。世間の注目を集めた事件だけに、マスコミ関係者を始め多数の傍聴希望者が殺到した。共同通信社

▼両親が眠る瀬戸内海・周防大島のお墓。共同通信社

フォト＋日録で再現する366日

▶**有リン洗剤追放（7月1日）**この日、滋賀県は琵琶湖条例を施行した。水質を汚濁する家庭からのリン流入を減らすためで、武村知事（中央）が無リンの粉石鹸使用を呼びかけた。

◀**都立高、甲子園に初出場（7月31日）**西東京地区予選の決勝戦で、国立高は2対0で駒大付属高を下した。写真は予選から81イニング、1016球を投げ抜いた市川投手（左端）とナイン。

読売新聞社

▼**イエスの方舟事件決着（7月22日）**警視庁は、若い女性を連れて逃避行を続けていた教祖・千石イエスを全国に指名手配。この日、東京・巣鴨少年センターに出頭した（中央）が、信者の証言で不起訴になった。

京都新聞社

◀**日商岩井幹部に有罪判決（7月24日）**次期主力戦闘機の売りこみをめぐる不正事件で東京地裁は、海部前副社長（中央）ら3人に有罪判決を下したが、政治家の刑事訴追にまではおよばなかった。

読売新聞社　共同通信社

▶**暴力団員が70匹の毒蛇を投棄（7月12日）**毒蛇の入った布袋で短銃を密輸したもの。滋賀県多賀町の山中で60匹を死体で回収、1匹は殺した（写真）が、残りは未回収のまま捜索を打ち切った。

京都新聞社

昭和55年7月

1（火）●ソニー、八ミリビデオの試作機を発表。
●芳賀書店が「ビニ本」専門店を神田に開店。
2（水）●宇宙開発委、H－ロケットの開発計画を決定。
3（木）●警視庁、イエスの方舟の教祖・千石イエスと信者ら二六人を熱海市で発見。女性七人を保護。
●横浜市で第一回日本文化デザイン会議開催。
4（金）●未成年の妊娠中絶が増加、と厚生省統計。
5（土）●労働省統計で定年六〇歳以上が五五歳を抜く。
6（日）●居住希望一位は「自然が多い町」と総理府調査。
7（月）●東京都中野区、改正教育委員準公選条例公布。
8（火）●都議会、美濃部前知事の環境評価条例案否決。
9（水）●日本武道館で故大平首相の内閣・自民党葬。
●パラオ諸島に世界初の非核憲法が成立。
10（木）●最高裁、執拗な退職勧奨は強要で違法と判決。
11（金）●金大中氏救出日本連絡会議が発足。
12（土）●日本母親大会に総評・日教組が不参加。
13（日）●モスクワ五輪不参加は六六ヵ国とIOC推計。
14（月）●コペンハーゲンで世界婦人会議が開幕。
15（火）●牛丼の吉野家が倒産。負債総額一二二億円。
16（水）●給食実施校の八四％が米飯導入と文部省調査。
17（木）●鈴木善幸内閣が成立。
●世界婦人会議で差別撤廃条約に五二ヵ国署名。
18（金）●東京高裁、日活ロマンポルノ事件（47年1月）の検察側控訴を棄却（8月1日、無罪確定）。
19（土）●大津市で合成洗剤追放・びわ湖シンポを開催。
●モスクワ五輪開幕。英仏など入場行進を拒否。
20（日）●武田恒夫阪大教授ら、犬山城で発見された「長篠合戦図屏風」は、ほかの屏風の原本と発表。
21（月）●総評大会開催。二五年ぶりに共産党を招かず。
22（火）●国際捕鯨委総会、商業捕鯨全面禁止案を否決。
23（水）●東京で「呆け老人をかかえる家族の会」開催。
●クロロキン剤被害者、元厚生省課長を告訴。
24（木）●東京地裁、航空機疑惑事件（53～54年）で日商岩井の海部八郎前副社長らに有罪判決。
25（金）●長崎大のグループ、海水の淡水化実験に成功。
●立体パズル「ルービック・キューブ」発売。
26（土）●日本青年会議所、自衛力増強求める提言採択。
27（日）●外務省、国連平和維持活動への自衛官派遣など、一九八〇年代の安全保障政策を発表。
28（月）●通産省と経企庁間にオンライン情報ネット。
29（火）●ダグラス社の日本への特別手数料密約が判明。
30（水）●癌研究所、遺伝子組み換えでインターフェロン量産に成功と発表。
31（木）●日立、記憶容量二・五ギガの磁気ディスク発表。

証言・あの日この日
森 茉莉（79）

8月26日（火）〈アフタヌーン・ショーで木元教子が、息子と関係を持った、という母親（おどろくべきことに何人か居るのである）を電話口に呼び出して、どういうことからそうなったのかを訊いていたが、その母親に告白させるように話を持って行く遣り口が巧妙悪辣を極めていた〉（森茉莉『ドッキリ・チャンネル』）

母親の過保護のすえの母子相姦が話題となったことがある。しかし森茉莉が問題にするのは、そういう話題を扱う時のジャーナリズムの覗き見的態度である。だから彼女の言葉は、こう続く。〈（私も年頃の息子を持っておりますが）、という言い方の中にどことなく、含みを持たせて、あたかも自分も息子との間にもそういう関係に陥ちこみかねないようなものがあるかのような感じに話を持って行ったその手口の巧妙で又、狡猾……〉。（坪内祐三）

読売新聞社

▲**新宿駅西口でバス放火（8月19日）**停車中のバスに37歳の男が火のついた新聞紙を投げこみ、ガソリンをまいたためバスは全焼、6人が死亡、14人が重軽傷を負った。

▼**“鉄人”衣笠、1247試合連続出場（8月4日）**45年10月から続けた連続出場は、後楽園球場で行われた対巨人14回戦で、飯田徳治の記録を塗り替え、日本記録となった。

◀**富士山登山道に大落石（8月14日）**吉田口砂走り（写真）で頂上付近から直径1～2メートルの岩数十個が落下。登山者を直撃して死者12人、負傷者29人を出した。

読売新聞社

▼**ポーランドで自主管理労組「連帯」公認（8月31日）**レーニン造船所で、ヤルゼルスキ第一副首相とワレサ統一スト委員長（左端）の間で、労組の公認とスト権保障の合意協定書が調印された。

WWP

▶**小学6年生の長崎宏子、初優勝（8月29日）**東京・代々木のオリンピックプールで行われた水泳の日本選手権大会で、長崎が女子200メートル平泳ぎの日本記録を持つ、渡辺智恵子を破って、2分31秒91で小学生のチャンピオンが誕生した。

日刊スポーツ　共同通信社

昭和55年8月

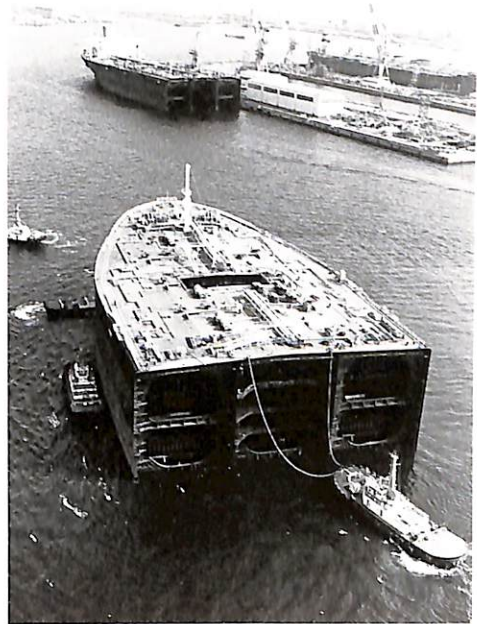
1（金）●呉市で世界初の帆走タンカー「新愛徳丸」進水。
2（土）●中年女性のパート就職が増加と労働省調査。
3（日）●東京で七八年ぶりの異常低温。最高二〇・九度。
4（月）●プロ野球の衣笠祥雄、一二四七試合連続出場。
●囲碁で初の少年少女全国大会を東京で開催。
5（火）●厚相、新老人保健医療制度の構想をまとめる。
6（水）●新宿署、恐喝などで「竹の子族」一四人を逮捕。
7（木）●都内の校内暴力は前年比四四％増、と新聞に。
8（金）●動燃事業団、使用済み燃料を使うプルトニウム混合転換施設に着工。
9（土）●首都圏上空でフロンガスが漸増、と新聞に。
10（日）●調布飛行場横の中学に双発機墜落。二人死亡。
●新宿の「キャッチ・バー」から逃げようとした大学生が窓から転落して死亡する。
11（月）●日本の自然海岸は四九％と環境庁調査。
12（火）●労働四団体政策委員会が初会合を開く。
13（水）●富山市の燐化学工業、負債一六〇億円で倒産。
14（木）●富士山で大規模な落石事故。一二人死亡。
●南太平洋地域首脳会議、日本による放射性廃棄物の海洋投棄計画を中止するよう決議。
15（金）●閣議、徴兵制度は違憲との初見解を決定。
16（土）●国鉄静岡駅前地下街でガス爆発。一五人死亡、二二三人負傷。
17（日）●館山市でサギの駆除開始（計一〇〇〇羽射殺）。
18（月）●航空自衛隊、緊急発進時の戦闘機に領空侵犯機迎撃用の空対空ミサイル搭載を開始。
19（火）●新宿駅西口で男がバスに放火。六人が死亡。
20（水）●青森県上北町で自衛隊の戦闘機が畑に墜落。
21（木）●沖縄東方でソ連原潜が火災。日本の救援拒否。
22（金）●陸奥湾の一六漁協、原子力船再母港化に反対。
23（土）●火災のソ連原潜、日本領海を強行通過する。
24（日）●生活程度が「中流」は八九％と国民生活調査。
25（月）●紀伊半島・遠州灘沖の大冷水塊が五年ぶりに消滅し、黒潮の蛇行も終息と判明。
26（火）●阪大と日本ライトハウスが画面操作による点字の自動編集・製版システムを開発。
27（水）●韓国大統領に全斗煥が選出される。
28（木）●環境庁、トキ保護のため野生の五羽すべてを捕獲し、人工増殖をはかることを決定。
29（金）●国鉄、各種指定券の発売を一週間前から一ヵ月前にすると発表（9月1日実施）。
30（土）●八月上旬が史上最低気温で「冷夏」と気象庁。
31（日）●ポーランド政府とワレサ統一スト委員長が自主労組設立協定書に調印（9月22日連帯発足）。

9~10月

◀**東大寺大仏殿、落慶法要(10月15日)** 7年の歳月をかけ、50億円を投じた昭和大修理が完了。この日から5日間、落慶法要が営まれた。写真はOSK日本歌劇団が奉納したレビュー「仏陀の光」のラインダンス。

▼**新幹線訴訟、名古屋住民敗訴(9月11日)** 騒音、振動に悩む沿線住民が起こした訴訟。この日の判決で、地裁は公共性を重視し、減速を認めなかったが、国鉄には慰謝料の支払いを命じた。

▲**伊藤律、29年ぶりに帰国(9月3日)** 戦後、中国で亡命生活を送り、この日、空路北京から帰国した。写真は車椅子に乗った伊藤で、ゾルゲ事件や密出国などの謎にはいっさい触れなかった。

▼**さだまさし、北京公演(9月6日)** 日本でも人気の「関白宣言」「秋桜」など15曲と、中国の歌「ああ青春」を歌い、北京展覧館劇場に詰めかけた若者たち2700人の、盛んな拍手をあびた。

▶**巨大タンカー誕生(9月3日)** 別々の船体をつないでひとつにするという、世界一を誇る日本のブロック工法で、56万トンのタンカーが津市の日本鋼管で建造された。写真手前は船首、上は船尾。

昭和55年9月

1(月)●青森など東北四県、冷害対策本部を設置(青森県の水稲作況指数は全国最低の四七)。
●航空審議会、関西新空港の泉州沖建設を答申。

2(火)●投資顧問の「誠備」が、買い占めた宮地鉄工株をもとに、同社に株主総会の開催を要求。

3(水)●元共産党幹部・伊藤律、中国から帰国。
●ワシントンで第一回日米軍事装備・技術会議。

4(木)●高知県窪川町の原発賛成派、推進請願書提出。

5(金)●小倉簡裁判事が女性被告に交際を強要と判明。

6(土)●志木市議会、放置自転車使用を警察に追及された学生市議を、議会出席停止の処分。

7(日)●宮城県松島水族館で人工飼育の世界記録を更新したマンボウが死亡。飼育記録七八八日。

8(月)●東大で寝たきり看護用ロボットの公開実験。

9(火)●日本電気、世界最速の超大型コンピュータACOSシステム1000を発売と発表。
●イラン・イラク戦争が勃発する。

10(水)●電電公社、超高純度光ファイバー開発と発表。

11(木)●埼玉県警、無免許診療の容疑で所沢市の富士見産婦人科病院の北野理事長を逮捕。
●名古屋地裁、新幹線公害訴訟で住民請求棄却。

12(金)●厚生省、手足口病など一八疾病を伝染病指定。
●東証一部のダウ平均が初の七〇〇〇円台に。

13(土)●札幌市の地下鉄工事現場で二人がガス中毒死。

14(日)●東京で八二〇〇人の老人が高齢者集会を開催。

15(月)●原子力船「むつ」の放射性廃棄物扱いの廃液二七〇㌧を事業団が二年間投棄した、と判明。

16(火)●女子就業者は全就業者の三三・八㌫と労働省。

17(水)●韓国軍法会議が金大中に死刑の判決。

18(木)●全国地下街でガス検知器設置は一四㌫と判明。
●日本電気、ＩＣ工場建設で英と合意と発表。

19(金)●富士見産婦人科病院の献金で斎藤厚相辞任。

20(土)●日韓が大型トロール船の漁獲量半減で妥結。

21(日)●「面倒見ぬ子に相続なし」が半数、と総理府。

22(月)●アジア留学生協力会設立。親日派育成が目的。

23(火)●「朝日新聞」(東京)が活版印刷最後の発行。

24(水)●イラン・ジャパン石化工場がイラクの爆撃で工事中断。三井グループが日本人に脱出指示。

25(木)●保護派の反対の中、知床半島横断道路が開通。

26(金)●東京北区で東北新幹線工事差し止め請求提訴。

27(土)●小笠原で放射性廃棄物海洋投棄の説明会開催。

28(日)●総理府、外交世論調査発表。ソ連嫌いが急増。

29(月)●日中海底ケーブルが上海沖で五回目の切断。

30(火)●主要民間六単産が労働戦線統一推進会結成。

▲**巨人・長嶋監督、突然辞任(10月21日)** 49年に監督に就任以来、2回のリーグ優勝をはたしながら、チーム不振の責任をとり、「男としてのけじめ」と辞任した。

▶**具志堅、防衛最多記録(10月12日)** 金沢市で行われた世界タイトルマッチで、フロレスを下し、13回目の防衛に成功。最多記録を樹立した。

▼**「二十四の瞳」の同窓会(10月25日)** 小豆島の岬の分校に、大石先生のモデルとなった岩井シンさん(右端)を教え子が招き、54年ぶりの会を開いた。

▲**中核派、革マル派内ゲバ(10月30日)** 東京・大田区の洗足池図書館前を歩いていた革マル派の学生ら5人を、白ヘルメット、黒覆面姿の中核派10人が襲い、鉄パイプやハンマーで全員を殺害して逃走した。

▶**富士見産婦人科病院が紛糾(10月5日)** 子宮や卵巣の摘出手術を受けた被害者は多数にのぼり、無資格診療で逮捕された北野理事長らを、傷害罪で告発した。写真はこの日、病院側説明会で釈明を求める被害者たち。

▲**日本の核廃棄物の海洋投棄に抗議(10月10日)** 投棄海域に近いテニアン島のメンディオラ市長(中央)が広島・平和公園の座りこみで「投棄すれば、日本人慰霊碑を海に投げる」と述べた。

昭和55年10月

1(水)●大府市の薬品倉庫で火災。八千余人が避難。

2(木)●落語協会、真打ち昇進に試験制度を導入。

3(金)●東京都板橋区議会、飛び降り自殺が続く高島平団地に監視員配備のための対策費を可決。

4(土)●愛媛県警、宇和島市のゴミ処理場建設めぐる市長への贈賄容疑で久保田鉄工幹部を逮捕。

5(日)●山口百恵、日本武道館で引退公演。

6(月)●鉱工業地は肺癌死亡率が高いと全国疫学調査。
●和菓子の虎屋、パリに「トラヤ」開店。

7(火)●前年度の不正請求による保険医取り消しは三七人、水増し額は一〇億円と厚生省が発表。

8(水)●外務省、対馬沖に沈むロシア軍艦「ナヒモフ号」の財宝所有権はソ連にないと発表。

9(木)●日産と伊アルファ・ロメオ社が合弁事業契約。

10(金)●アルジェリアで大地震。二五万人が被災。

11(土)●南半球のミンク鯨捕獲枠を折半で日ソ合意。

12(日)●ボクシングの具志堅用高、一三回目の防衛。

13(月)●普通校転入希望の脳性麻痺児童の母親ら、交流通学を訴えて足立区役所前で座りこみ。

14(火)●札幌地裁、伊達火力発電所建設に関する環境権訴訟(47年7月)で、住民の訴えを棄却。

15(水)●政府、廃棄物投棄を規制する海洋汚染防止条約の批准書を、米ソなど四ヵ国に寄託。

16(木)●北海道の天人峡温泉で崖が崩れホテルを直撃。

17(金)●一九八八年の五輪に名古屋市が立候補。

18(土)●西本願寺阿弥陀堂、二二〇年ぶり大修理開始。

19(日)●三割の親子が接触なしと総理府家庭教育調査。

20(月)●日本、国連安保理非常任理事国に当選。

21(火)●民間企業の身体障害者雇用率は一・一三㌫で法定雇用率に達せずと労働省発表。
●長嶋茂雄が巨人軍監督を辞任する。

22(水)●自民党の教科書に関する小委員会が初会合。

23(木)●吹原産業事件(40年)の森脇将光、実刑確定。

24(金)●農水省、冷害による全国の農作物被害は過去最高の六九一九億円と推計。

25(土)●外交官試験合格者発表。女性三人は過去最高。

26(日)●三県で知事選。岡山三選、長野・奈良は初当選。

27(月)●尾鷲市の中学で生徒二十数人が教員一一人に暴行。警官五一人が出動し生徒を補導。

28(火)●『犯罪白書』を閣議了承。金融機関の強盗増加。

29(水)●新宿バス放火事件の被疑者を殺人罪で起訴。

30(木)●東京で中核派が革マル派を襲撃。五人死亡。

31(金)●東京地裁、戦時中の貯蓄債券の購入金返還訴訟で、発行元の第一勧銀に支払い命令。

時事通信社

読売新聞社

◀イタリア南部に直下型大地震(11月24日)ナポリ、サレルノなどの都市をマグニチュード6.8の地震が襲い、ビルや教会は一瞬のうちに倒壊した。被災者は20万人にのぼった。

WWP

▲非難あびる買春ツアー(11月29日)丸の内の国労会館で「'80買春観光に反対する集会」が開かれ、主婦ら500人が会場周辺をデモ(写真)。国会でもフィリピンツアーが問題となり、観光労連も反対を表明した。

▲さようなら王選手(11月4日)記者会見で「助監督に専念する」と引退を発表、22年間の現役生活に別れを告げた。三冠王2回、本塁打王15回、打点王13回、世界記録の通算本塁打868本などの記録を残した。

▼米大統領選、レーガン当選(11月4日)選挙前は接戦を予想されたが、保守ムードが高まり、現職のカーター大統領を大差で破って、大統領就任を決めた。写真は支持者にこたえるナンシー夫人(左)とレーガン。

共同通信社

読売新聞社

▲最高裁、野坂昭如に有罪(11月28日)「四畳半襖の下張」に思想や芸術性を認める新判断を示したが、有罪の判決。作家・野坂昭如(左から3人目)は、「裁判官は時代錯誤」と述べた。

◀川治温泉でホテル火災(11月20日)川治プリンスホテルの改修工事現場から出火し、老人クラブの会員ら45人が焼死した。増築を重ねて迷路のようになった館内が被害を大きくした。

毎日新聞社

昭和55年 11月

1(土)●国税専門官(Gメン)に初の女性三人が合格。
2(日)●死刑廃止一四ヵ国、存続六二ヵ国と総理府調査。
●高齢化が進むと国土庁が『過疎白書』発表。
3(月)●中村勘三郎、丹下健三ら五人が文化勲章受章。
4(火)●巨人軍の王貞治、現役引退を発表。
●米大統領に共和党のレーガンが当選する。
5(水)●奥野法相、閣僚の靖国公式参拝は合憲と発言。
6(木)●囲碁の趙治勲、韓国出身で初の名人に。
7(金)●政府税調が税制改正答申。大型消費税導入も。
8(土)●平和と民主主義のための知識人会議、結成。
9(日)●東京銀座の一億円拾得(4月25日)に時効成立。
10(月)●退社後理髪店に寄ってからの負傷に労災認定。
11(火)●警察庁、電話通話料が無料になる装置「マジックホン」の製造業者を捜索。
12(水)●埼玉県幸手町で市昇格人口確保のため、商工会などが国勢調査に水増し登録と判明。
13(木)●鉄鋼五社が中間決算。経常利益は過去最高に。
14(金)●動燃、再処理で抽出したプルトニウムから核燃料製造に成功と発表。初の国産核燃料。
15(土)●暴走族が小田急線の踏切突破、電車が急停車。
16(日)●新潟大の調査で越冬するハクチョウの死因の八割はえさ不足、と新聞に。
17(月)●赤字一四〇〇億円の都交通局が再建策を発表。
18(火)●厚生・警察・国税の医療に関する三省庁連絡会議発足。医療機関の不正監視が目的。
●農水省、減反目標年間約六八万㌶の方針決定。
19(水)●真宗大谷派の内紛で法主派と改革派が和解。
20(木)●栃木県川治温泉でホテル全焼。四五人が焼死。
●中国で江青ら「四人組」の裁判が始まる。
21(金)●クロム被害の死者は二三人と被害者の会発表。
22(土)●東京国立近代美術館で、画家志望の男が梅原龍三郎の作品など三八点を破損し現行犯逮捕。
●東京で女性五人が就職差別に抗議のハンスト。
23(日)●倉敷の高校で酒盛りの生徒が屋上から転落死。
24(月)●富士山で八月一四日に続き落石。一人死亡。
25(火)●法制審、現行の代用監獄制度の存続を答申。
●EC外相理事会、貿易摩擦で対日強硬策決定。
26(水)●横浜で情報公開に関する初の自治体シンポ。
27(木)●静岡県警、暴力団組長の服役逃れのために偽診断書を書いた国立熱海病院医長を逮捕。
28(金)●最高裁、猥褻判断に芸術性考慮と新基準示す。
29(土)●川崎市で予備校生が両親を金属バットで撲殺。
●東京で「'80買春観光に反対する集会」開催。
30(日)●猿橋勝子、日本学術会議初の女性会員に当選。

◀ジョン・レノン安らかに(12月24日)東京・日比谷の野外音楽堂で、8日に射殺されたレノンの追悼集会が開かれ、6000人のビートルズファンが集まった。写真はレノンの代表曲「ギブ・ピース・ア・チャンス」に、泣き崩れる女子高校生。

共同通信社

▶免田事件に無実の道(12月12日)23年、熊本県人吉市で起きた一家殺傷事件に対し、最高裁は6度目の再審請求で新証拠を認め、再審開始を決定。58年に無罪となった。写真は免田元被告の母親(左)と実弟夫婦。

読売新聞社

▶徳島ラジオ商殺しに死後救済(12月13日)28年の事件で有罪判決を受けたが、徳島地裁は、元店員の証言は虚偽として、再審開始を決定した。写真は故富士茂子の墓前に決定書を供える家族と支援者たち。

読売新聞社

▼被爆者に厳しい意見書(12月11日)「弔意金支給や遺族年金は創設しない」、とした原爆被爆者対策基本問題懇談会の答申に、被爆者団体は強く反発し、東京・四谷の主婦会館で被爆者援護法即時制定を求める総決起集会を開いた。

共同通信社

◀出まわるニセ・ブランド品(12月1日)警視庁は、メーカーや工場など12カ所を家宅捜索し、ニセ物2万点、トラック2台分を押収した。写真は市価3分の1のニセ・ブランド品。

毎日新聞社

▲やすし・きよしに芸術祭賞優秀賞(12月11日)漫才ブームを担い、テレビの「花王名人劇場」での活躍が評価された。「初心に戻って勉強します」と記者会見で述べた。

時事通信社

昭和55年 12月

1(月)●武蔵野市福祉公社発足。資産を担保に終生面倒をみる、全国初の老後保障制度の実施機関。
2(火)●大阪地裁、福島駅の視力障害者転落事故(48年)で、国鉄に損害賠償を命ずる判決。
3(水)●日産、フォルクスワーゲン社との提携を発表。
4(木)●柏崎原発増設の説明会に二千余人が抗議行動。
5(金)●第一回日中閣僚会議終了。対中円借款に調印。
6(土)●大阪で初の国際人権シンポジウムを開く。
7(日)●福岡国際マラソン、瀬古選手が三連覇。
8(月)●ジョン・レノン、ニューヨークで射殺される。
●国鉄、新幹線沿線の五五二幼稚園・小中学校に線路近くでの凧揚げ禁止のポスターを配布。
9(火)●東京・東北両電力、脱石油に原発推進で合意。
10(水)●国費のむだ遣いは三三六億円で過去最悪。
●佐渡島で人工飼育のためトキの捕獲を開始。
11(木)●ベトナム難民八九人が米国船で大阪港に入港。
12(金)●最高裁、免田事件(23年)の再審決定。
13(土)●徳島地裁、徳島ラジオ商殺し(28年)再審決定。
14(日)●企業交際費は、過去最高の二兆九〇〇〇億円。
15(月)●富士通ファナックがロボットによる自動生産システム、FMS導入の富士工場を完成。
16(火)●通産・建設両省が推進するハウス55計画で、ミサワホームの簡易耐火住宅が承認第一号に。
17(水)●有機農業の水田は冷害に強いと農林中金調査。
18(木)●政府、五六年度から所得税の寡夫控除を決定。
19(金)●社長の年収が五〇年前は新入社員の一〇〇倍だったが、前年は八倍と日経連が発表。
20(土)●栄養の過剰摂取が漸減と厚生省の栄養調査。
21(日)●都内の暴走族が八王子署に脱会届を出し解散。
22(月)●「日本はこれでいいのか市民連合」が発足。
23(火)●東京高裁、衆院総選挙無効の訴訟で、定数格差が三対一を超えれば違憲と判決。
●自動車工業会、一一月までの生産台数が一〇〇〇万台を突破、世界一になったと発表。
24(水)●東北南部沖で大しけ。五隻遭難し二三人不明。
25(木)●出火原因一位は放火一五一五件と東京消防庁。
●東京・北区で東北新幹線の起工式が行われる。
26(金)●筑波の遺伝子組み換え施設建設に予算決定。
27(土)●国鉄経営再建促進特別措置法公布。五兆円の債務据え置き、赤字ローカル線廃止など。
28(日)●千葉県大栄町で三〇歳の最年少町長、再選。
29(月)●逗子開成高の六人、北アルプス唐松岳で遭難。
30(火)●粗鋼生産は日本が米国を上回ったと判明。
31(水)●厚生省、出生率一・三七%で過去最低と発表。

山陰中央新報社

▲世界で200羽もいない珍鳥「ソデグロヅル」が1羽、松江市に飛来。

流行語

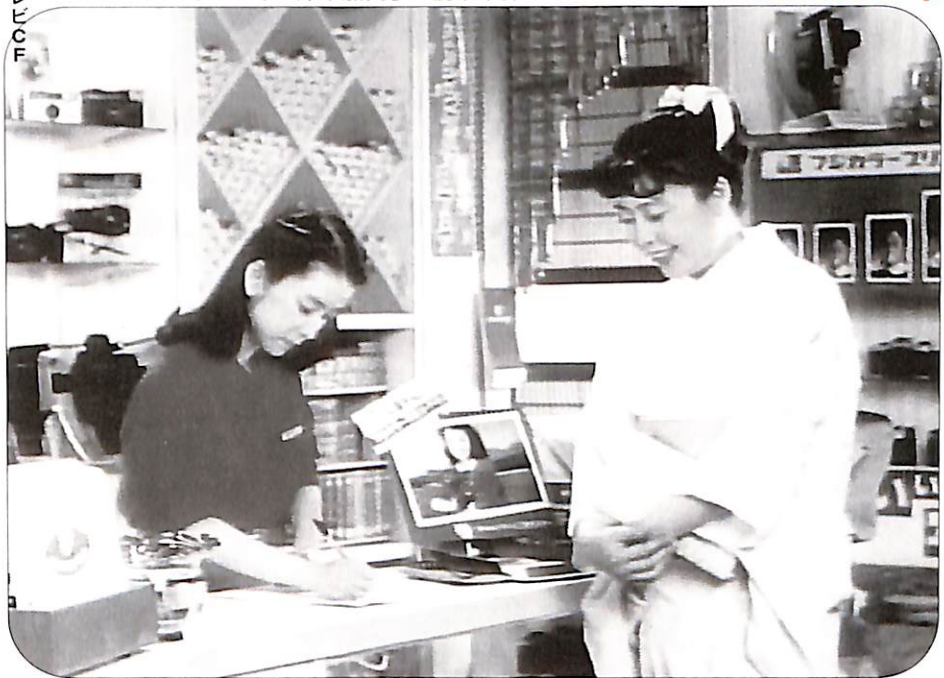
「カラスの勝手でしょ」

ザ・ドリフターズの「8時だヨ！全員集合」（TBS系）はPTAからワースト番組に指定される常連だったが、この年この番組から出た「カラスの勝手でしょ」という言葉が、日本中を席巻した。志村けんが「カラス、なぜ啼くの」と歌い出すと客席の子どもたちが「カラスの勝手でしょ」と大合唱。さらに自分の意思を通したい時は何かにつけて「カラスの勝手でしょ」とやって、大人たちを困惑させることになった。

「ぶーたれる」。この頃からマンガチックで、感覚的な言葉が若者用語として広がった。「ぶーたれる」もそのひとつで、ぶつぶつ文句を言うこと。このほか恐がることを「びびる」、びっくりすることを「ぶっとぶ」などとも言った。

「間接喫煙」。一一月の日本癌学会で、他人のタバコの煙でも肺癌になりうるという調査が発表され、タバコを吸わない人が車内や室内で煙を吸わされることが社会問題になった。これが「間接喫煙」で、愛煙家にとっては外堀がまたひとつ埋められることになった。

CM100年

タレント・岸本加代子、樹木希林

テレビCF「それなりに写ります——フジカラー」（富士写真フイルム）

ファッション

初の素肌美人に女子大出のお嬢さん

五月二二日、帝国ホテルで素肌のきれいな女性のコンテストが行われ、最終審査に残った一九人の中から金子美由紀さん（二二）が優勝した。

応募者は一五歳の高校生から五九歳の独身女性まで一三二三人。皮膚表面の観察および皮脂量、肌の科学的検査などを経て、秋山庄太郎、岡本太郎氏らの眼鏡にかなわなければならないというもの。

優勝した金子さんは今春、大学を卒業したばかり。「食事は野菜中心でパン食。ごはんはほとんど食べない。お酒はビールとバーボンを少々」という。

（「週刊大衆」七月三日号）

特産品

ワインも玉露もある全国農業高校の名物

全国には農業高校、水産高校が五〇〇校あり、その学校だけの特産品も多い。たとえば北海道・標茶高の校地は二五四・九ヘクタールで日本一。そこで乳牛五二頭を飼育し、牛乳を一日二八〇～三四〇リットル、雪印乳業に出荷している。栃木県の宇都宮農は野菜を市場に出荷し、年間売り上げ五〇〇〇万円。

長野県の塩尻高は全国で唯一、校章入りラベルのワイン（一本六〇〇円）を二五〇〇本販売している。また静岡県の小笠農はお茶で有名で全国に通信販売。玉露の最高級品が一キログラム八五〇〇円、煎茶は四五〇〇～六〇〇〇円。

（「週刊朝日」七月二五日号）

物価

愛のメッセージも可街の電光掲示板

電光掲示板といえば広告やニュースばかり。個人のメッセージなんか扱ってくれないと思われているようだが、そうではない。渋谷・ハチ公前の電光掲示板の場合、三〇字分の文章を夕方から夜一〇時までに六〇～八〇回流して、お値段は一カ月一五万円。週単位でもOKで、「〇〇さん、愛してます。〇子」といった個人メッセージも受け付けるという。

（「週刊新潮」一〇月九日号）

鳥山明　集英社ジャンプコミックス

▲1月、鳥山明作「Dr.スランプ」（「週刊少年ジャンプ」）連載開始。

美女倶楽部

伴田良輔・選

日本人の性と愛を虚実あいまみえた独自のスタンスで撮り続ける荒木経惟。日付入りコンパクト・カメラによる"写真日記"スタイルの出発点、写真集『荒木経惟偽日記』がこの年刊行された。乳房美人、誘惑の夜……。

三面記事

「泥棒より我を生かす道なし」

〔松山発〕作家の武者小路実篤氏は人生の指針となる名文句を数多く残した。「この道より我を生かす道なし。この道を歩く」という言葉もそのひとつで、この言葉に励まされながら一七五件、一〇〇〇万円の盗みを重ねていた男（三五）が松山東署に捕まった。

男はいつも一冊の手帳を後生大事に持ち歩いていて、そこにはこの文句が何度も書きつらねられていた。たとえば「正直言って疲れた。魔がさしたように別の道を歩きたくなる時がある。しかし、自分で選んだひとつの道だから、簡単にほかの道に移ることはできない。この道より我を生かす道なし。この道を歩く」といった調子。

男は気弱になったり、孤独を感じた時、この文句を手帳に書いては何度も読み返していた。

（「愛媛新聞」八月三〇日）

産業

"あの世産業"の珍奇アイディア集

「祖先墓情」と銘打たれた墓石のバーゲンセールが松坂屋銀座店で催された。会場には内外の名石で造られた二五基のモデルの墓石が置かれ、客がひきもきらない。同店では一度のバーゲンで約一〇〇基売れ、五年で一〇〇〇基売った。

墓や葬式をめぐる"彼岸ビジネス"は今や三兆円市場。アイディア合戦も熾烈である。ある仏壇店はファミリーレストランのようなチェーン店を展開。各店に"仏間"まで作って客を呼びこんだり、住民への訪問販売を行っている。また、ある葬儀社の社長は不幸のあった家に"哀悼貢献者"という名の高齢者の助っ人男女一組を派遣、喪服の着付けやお茶の接待を引き受けて近所づきあいの乏しい都会で大いに喜ばれている。

（「週刊ダイヤモンド」九月二七日号）

共同通信社

▲5500台もの自転車が放置された国鉄国立駅（東京）。

セックス

大人のオモチャが今や一〇〇億円産業に

セックス産業界で世界の最大手である西ドイツの「ベアテウーゼ」社が、日本の大人のオモチャを「アイディア、性能とも世界一」と絶讃したという。この世界に専門業者が登場したのは昭和四三年頃。東京と大阪にそれぞれ一軒ずつだったから、わずか十数年で世界のトップにのし上がったわけ。現在は製造業者一五社、小売店一〇〇〇軒で従業員も二万人を超え、そこで売られる性具類は四〇〇種類、売り上げは年間一〇〇億円に達する。

業界では目下、男性と女性が一緒に使える性具の開発にしのぎを削っており、これが完成した時には世界をアッと驚かすことになるだろうという。

（「週刊現代」五月一日号）

データ

主婦売春めあてに敬老パスで通う老人

名古屋駅前の浮浪者は約一〇〇人。そのうち三割は夏の間に働いて金を残しておき、寒くなると簡易旅館へ。

売春婦は一五人。ほとんどが五〇代の主婦で、時折、四〇代も。彼女らのねらいは六〇歳以上の老人で、「駅前に行けば年寄りでも相手にしてくれる」というので人気もあり、名古屋郊外や三重県から敬老パスでやって来る男性もいる。

（「名古屋タイムズ」九月二五日）

この年の初もの

ホステス専門求人誌「アルジェンヌ」創刊

●入社受験料　奈良新聞社が二〇〇〇～三〇〇〇円を徴収。

●ボディファッション・ショー　京都で開催。「装いの原点は女性の健康な肉体にあり」という趣旨で、女性の健康美を見せるショーのほかランジェリー、ナイトウェアなどを展示。

森永製菓提供

▶森永製菓は一〇月、ぬか漬けの素「ぬかよろこび」を発売。

世界の動き

大統領経験者二人が関与！戒厳令下の弾圧、韓国・光州事件の〝真相〟

韓国の光州市で、学生らによるデモが、全市の占拠にまで発展。その後、軍隊が突入し、内戦さながらの銃撃戦で市内を制圧した。公式発表では、死者、行方不明者は数百人とされているが、長い間謎だった事件の真相は、一六年後ようやく明らかになり、責任者に処断が下った。

▲光州事件の引き金となったのは、学生と機動隊の衝突だった。5月18日朝、全南大学前に集まった約5000人の学生デモを機動隊が鎮圧しようとしたが失敗。写真は翌19日、光州市の路上で、空挺部隊（手前）に投石するデモ参加者たち。

戒厳軍が光州市を包囲 まず空挺部隊員が潜入

一九八〇年五月二七日未明――韓国南西部の光州市（人口約八〇万人）は、緊張に包まれていた。

九日前から始まった学生の抗議行動は、戒厳軍との衝突を招き、多数の死傷者を出していた。軍の強圧的な姿勢が市民の怒りを呼び、二一日には、デモ隊は市民も加わって二〇万人にも膨れあがった。彼らは市の公共機関を占拠、軍との間に銃撃戦を交わした。一方、軍は光州市を包囲し、孤立させる作戦をとった。二五日、崔圭夏大統領は事態収拾を呼びかける特別談話を発表。二六日、包囲網を縮めた戒厳軍は、援軍を迎えて市内に突入する機をうかがっていた。

日付が二七日に変わる頃、戒厳軍は、闇夜にまぎれて行動を開始した。最初に、胎拳道の有段者ぞろいの空挺部隊員が、私服姿で一人、二人と市街地に入り、戦車の突入を阻止するためのバリケードを固めていた学生らを逮捕した。

市内に入っていた報道写真家の風間公一氏はその夜、「軍隊突入近し」の知らせを聞き、旅館から学生たちの〝司令部〟になっている全羅南道庁に急いだ。そこで氏は「暗闇の中から約一〇〇人の学生たちが隊列を組んで走ってきて、銃を取り、ジープやトラックに分乗して、街の西方に走り去った」（猪狩章編著『光州80年5月』すずさわ書店）のを目にしている。

午前三時半、戦車と装甲車を先頭に、軍が一斉に市内に進入。学生らと軍との間で激しい銃撃戦が始まった。やがて軍の大型ヘリが、攻撃ヘリの支援を受けて道庁近くに着陸。部隊員がヘリから飛び出すと、またたく間に付近を制圧した。

午前五時前、道庁をはじめおもな公共機関が軍の手に落ちた。国営放送はラジオで「暴徒の拠点である道庁と光州公園は軍が完全に掌握した」「市民は街頭に出ないように」「暴徒をかくまってはならない」と繰り返し放送した。

午前七時半、それまで散発的に鳴り響いていた銃声がやみ、軍人が手あたり次第にホテルや旅館、市民の住宅などの捜索を始めた。

五月三〇日になって、戒厳司令部は、一八日から二七日にかけての衝突で、死者一七〇人（民間人一四四人）、負傷者三八〇人（民間人一二七人）と発表したが、光州市民は、死者だけでも二〇〇〇人以上と推定している。

◀五月二一日、軍から奪った軍用トラックに乗り、気勢をあげる光州市民。

軍部独裁復活をねらう全斗煥のシナリオ

一九九六年八月二六日、ソウル地裁は、全斗煥元大統領に死刑、盧泰愚前大統領に懲役二二年六ヵ月、ほかの一三被告に懲役一〇年から四年の有罪判決を下した。

断罪されたのは八〇年の「光州事件」とその前年の「粛軍クーデター」だった。

ことの起こりは、七九年一〇月二六日、朴正煕大統領が、腹心の中央情報部（KCIA）の金載圭部長に射殺された事件だった。それは民主化運動への対処をめぐる対立が原因とされる。これで朴大統

想像力と共感を武器に ユルスナールの「ミシマ」論

佐伯 修

昭和四五年一一月に起きた三島由紀夫の自決は、割腹という行為そのもののショッキングなイメージも手伝って、海外でも大きな反響を呼んだ。

その結果、三島とその死に関する多くのコメントや書物が各国で現れたが、中には、彼と復古主義やホモセクシュアルを、スキャンダラスに書き立てただけのものも少なくなかった。

そんな、「ミシマ」をめぐるかしましい言説の間隙をぬって、低い、抑制された声で語られたのが、昭和五五年に刊行された、フランスの女性作家マルグリット・ユルスナール（一九〇三～八七）の『三島由紀夫あるいは空虚のヴィジョン』である。

「同時代の大作家を論ずるのはつねに困難である。距離を置いて眺めることができないからだ。その作家が、私たちの文明とは違った文明、エキゾティシズムの魅力あるいはエキゾティシズムへの警戒心を掻き立てるような文明に属している時には、その困難はなおさらである。三島由紀夫の場合がそうであるように、彼自身の文化の要素と、彼が貪欲に吸収した西欧文化の要素、つまり私たちにとって月並なものと、私たちにとって奇異なものとが、作品ごとに違った割合で混り合っており、その効果や出来映えもまちまちである時には、さらに誤解の可能性は増大しよう」（澁澤龍彦訳）

▶昭和五七年来日、日本紀行は『牢獄巡回』に。

ベルギー生まれで、『ハドリアヌス帝の回想』や『黒の過程』など、古代や中世を舞台にした作品や、『とどめの一撃』のような、ロシア革命における白軍パルチザンを主人公とする作品を書いたユルスナールは、日本の古典にも早くから関心を示していた。だが、彼女はこの三島論執筆の時点では、まだ日本を訪れてはいない。

したがって、情報不足からくる日本への誤解も、この本には見られるが、それはむしろ取るにたらぬことに思われる。ユルスナールは、当時仏訳されていた三島の作品と、若干の報道などだけを頼りにして、この遠い国の作家を、特殊な国の特殊な作家としてではなく、自分たちと同じ世界の住人として理解しようとした。

そして彼女は、三島が、死の直前、罵声をあびせる自衛隊員を前に演説するシーンに、二〇世紀の悲劇作者らしくさりげなく、こんな卜書きを書き添えている。

「群衆の罵声に、やがて現代世界特有の物音の一つが加わる。すなわち呼ばれたヘリコプターが回転翼の騒音を撒きちらしながら、中庭の上空を旋回しはじめたのである」

領の一八年におよぶ軍事独裁が終わり、崔圭夏首相が大統領代行（後に大統領）に就任し、民主化を求める声が高まった。

しかし、国軍保安司令官だった全斗煥は、戒厳司令部合同捜査本部長に就任するとすばやく行動を起こした。一二月一二日、民主化に寛容な鄭昇和陸軍参謀総長を、朴正熙暗殺事件に関与した嫌疑で逮捕したのである。軍部独裁の崩壊に危機感を持つ全斗煥と少壮将軍グループは、こうして軍部の実権を掌握した（この粛軍クーデターが、九六年の判決で「軍反乱」とされた）。

彼らは、次に民主化勢力を粉砕することで政権そのものを手中にしようとする。八〇年四月以降、学生デモを弾圧。政権掌握の機到来とみた全斗煥らは、五月一七日、金大中ら反体制派指導者や学生の代表を逮捕。翌一八日から非常戒厳令を全国に布く。この弾圧に強く反発したのが、金大中の出身地で、最大の支持基盤である光州市の学生・市民だった。

有罪が確定しても刑は執行されるか

一〇日間におよぶ大規模な抵抗運動を武力で鎮圧し、多数の死傷者を出した光州事件は、軍の力を誇示する好機と考えられていた（光州事件は、判決で軍部の「内乱」とされた）。

事件後の八月、全斗煥は、崔圭夏大統領から譲られる形で大統領に就任、政権掌握のシナリオは完成した。

全斗煥と陸軍士官学校の同期生で、一貫して行動をともにしていた盧泰愚は、八八年に全斗煥の後を継いで大統領に就任した（九三年二月に退任）。

一九九六年の裁判では二人の大統領経験者に有罪が宣告されたが、「最高裁で有罪が確定しても、刑が執行される可能性は万にひとつもない」と「コリア・レポート」の辺真一氏は言う。

「大統領経験者に刑を執行すれば、韓国のイメージ低下はまぬがれない。軍関係者の力をそぐという目的を達したのだから、金泳三大統領が、特赦（有罪の判決を失効させる）を行うことは確実視されているのです」

それでも、光州事件の真相糾明はまだ不十分という韓国国民の声は強い。

▼5月21日からの戒厳軍との衝突と銃撃戦で死亡した、光州市の学生・市民の遺体を納めた棺の列。

往きて還らぬ

▲11月7日　S・マックイーン(50)
映画俳優。「荒野の七人」「大脱走」などで熱狂的なファンを持つ、ハリウッドのスーパースター。癌で死亡。

▲6月12日　大平正芳(70)
首相。昭和27年政界入りし、外相、自民党政調会長などを歴任、53年末首相に就任した。選挙戦の最中、急死。

▲11月7日　越路吹雪(56)
歌手。宝塚歌劇団を経て、ミュージカルに出演、シャンソンを歌う。ヒット曲に「サン・トワ・マミー」など。

▲8月12日　立原正秋(53)
作家。虚無と日本美を主題に、独特の詩情を漂わせた作風で多くの読者をつかんだ。代表作に『薪能』『剣ケ崎』ほか。

▲5月1日　大内兵衛(91)
経済学者・財政学者。戦前、『財政学大綱』で財政学を初めて体系化。戦後は社会保障制度の確立に力を注いだ。

▲2月15日　新田次郎(67)
小説家。富士山測候所勤務の体験をもとにした「強力伝」で直木賞受賞。山岳小説を開拓。ほかに『武田信玄』など。

▲5月12日　沢田美喜(78)
敗戦直後、混血児のための福祉施設「エリザベス・サンダース・ホーム」を創設。2000人の子どもを育てた。

▲4月15日　J・P・サルトル(74)
哲学者・作家。戦時中はレジスタンス活動に取り組み、戦後は実存主義の代表者として活躍。主著に『嘔吐』ほか。

▲9月20日　林家三平(54)　落語家。七代目林家正蔵の長男に生まれ、軽妙な“リズム落語”で多くのファンを集めた。司会者としても活躍。

▼4月29日　A・ヒッチコック(80)
映画監督。サスペンス・スリラーの巨匠としてその名を知られ「レベッカ」「鳥」「裏窓」などの名作を遺した。

▲12月8日　ジョン・レノン(40)
元ビートルズのメンバー。解散後はソロ活動を行っていたが、ニューヨークで射殺された。オノ・ヨーコは夫人。

▲10月21日　嵐寛寿郎(77)
映画俳優。昭和2年「鞍馬天狗異聞・角兵衛獅子」に出演し、鞍馬天狗ブームを作る。ほかに「右門捕物帖」など。

ミニ事典

1980年のキーワード

対ソ輸出抑制
米・カーター大統領が一月四日、ソ連のアフガニスタン侵攻を非難して穀物・技術などの対ソ輸出について発表した制裁措置。同盟国にも同調を要請、日本は六日、厳密なココム(対共産圏輸出統制委員会)禁輸品目の適用に納得したが、仏・西独両政府は対ソ非難には同調しながら、輸出抑制措置の協力は拒否した。

もぐりこみ現象
地球表層のプレートが一方のプレートの下へもぐりこむ現象。プレートテクトニクス理論が地震や火山活動などを説明するメカニズム。海上保安庁が三月六日までの調査で、千葉県銚子沖約二〇〇キロの海底にある海山が二つに割れ、その西半分が日本海溝の下にもぐりこんでいるのを発見、初めて具体的に検証した。

過疎地域振興特別措置法
全国の過疎化地域の活性化をおもな目的として、三月三一日に公布された法律。略称、新過疎法。昭和四五年に一〇年間の時限立法として成立した旧過疎法を引き継いだ。旧過疎法が基幹道路の整備などを最優先したのに対し、新過疎法は地域の産業振興に重点を置いた。過疎化の明確な歯止めにはならなかったが、大分県が始めた一村一品運動など各地の町おこし・村おこしに火をつけた。

教育委員準公選
自治体の長によって任命されてきた教育委員を、公選に準ずる選挙で選出すること。東京都中野区がこれを保障する条例を昭和五四年五月に公布。文部省は同条例を違法として三月八日、東京都教育委員会を通じて中野区に、中止を指導する通知を伝達した。しかし、五六年二月、選挙は実施され、中野区在住の評論家・俵萌子はじめ三人が選出された。

▶東京都中野区の教育委員準公選で選出された三人のうちの一人、俵萌子。

共同通信社

グループ選抜制
都立高校の入学者選抜について、学区を二つのグループに分け、希望する高校を指定受験するようにした制度。この年三月二五日、東京都教育委員会が決定、昭和五七年度から実施された。昭和四二年度から実施してきたそれまでの学校群制度が、希望校に入れないなどの不満が強く、都立高校離れが進んでいたため。

降水確率予報
雨の降る確率を百分比で表す気象庁の天気予報。六月一日から東京地方で開始された。各種の気象観測データをコンピュータで解析したもの。これまでの「ときどき雨」などと改められた。この五〇パーセントは対象地域の半分で雨が降るだろうという意味だが、降るか降らぬか半々の意味だという誤解もあった。

◀林原生物化学研究所が開発したインターフェロン。癌患者の注目を集めた。

共同通信社

インターフェロン
ウイルスなどの刺激によって、白血球の中のリンパ球などが作り出すタンパク質。未感染の細胞に抵抗力を与え、ウイルスなどの感染をおさえる働きがあるため、癌の治療薬として期待された。七月三〇日、癌研究会・癌研究所生化学部研究員の谷口維紹らが東大医科学研究所のセミナーで飛躍的な量産に成功と発表した。

WWP

▲7月14日からコペンハーゲンで開かれた世界婦人会議。

女子差別撤廃条約
女性に対するあらゆる差別を廃し、男女平等の実現を目的とする国際条約。昭和五四年一二月の国連総会で採択され、この年七月一七日、コペンハーゲンでの世界婦人会議で日本を含む五二ヵ国が署名した。日本では、それまでの父系血統優先主義の国籍法を父母両系血統平等主義に改めるなど国内法の整備後、六〇年六月に批准。平成七年九月で条約当事国は一三五ヵ国。

クロロキン薬害
腎炎やてんかんの治療薬として使用されたクロロキン製剤の副作用によってもたらされた視力障害。七月二三日、患者らが原因は行政の怠慢として元厚生省薬務局製薬課長を東京地裁に告訴した。昭和五七年二月、国・製薬会社の過失を認める判決が下されたが、平成五年六月、最高裁は旧薬事法には規制する権限は明示されておらず、賠償責任を問うことはできないとの判断を示した。

フロンガス
炭素に塩素・フッ素の原子が結びついた化合物で、無色・無臭・無毒、不燃性のガス。正式にはクロロフルオロカーボン。冷蔵庫の冷媒やスプレー噴射剤などに大量に使われてきたが、成層圏に蓄積するとオゾン層を破壊し、皮膚癌の発生率を高めると問題になっていた。八月九日、気象庁は首都圏上空でも相当の濃度が蓄積されていると新聞発表。日本では昭和六三年五月のオゾン層保護法とその後の改正法によって特定フロンガスの使用は規制された。

低レベル放射性廃棄物
原子力施設から生じる紙や手袋などやその洗濯排水など。核分裂生成物に比べて放射線量は低いが、量がきわめて多い。九月二七日、政府はこれを海洋投棄する計画を立てたが、予定海域に近い東京都小笠原村が拒否。後、陸地に埋設処分する方針を定め、平成四年、青森県六ケ所村で最終埋設施設の操業が開始された。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1980

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室+渡邉裕二
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　(有)エービーシープレス　(株)カマル社　シド・プロ　(有)マックス　(有)マライカ　小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　張替政展　藤森雅弘　結城順一　吉田忠正
●写真協力
荒木経惟　ゲーリー・ローゼンクイスト　但馬一憲　東山魁夷　平野美津子　朝日新聞社　アメリカン・フォト・ライブラリー　キネマ旬報社　共同通信社　京都新聞社　光文社　山陰中央新報社　時事通信社　集英社　日刊スポーツ　Nature・Production　文藝春秋　報知新聞社　毎日新聞社　読売新聞社　WWP　岡墨光堂　黒澤プロ　ソニーレコード　東宝　トヨタ自動車　日産自動車　本田技研工業　マツダ　森永製菓

週刊YEAR BOOK
日録20世紀
1980
●山口百恵、涙の引退!
4月8日号
第1巻第8号 通巻8号
平成9年4月8日発行(毎週火曜日発行)
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
(編集)03・3944・1295 (販売)03・5395・3604
定価550円(本体534円)

雑誌 23702-4/8 T1023702040555
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社